

平成21年1月22日
総務省消防庁

心肺機能停止傷病者の救命率等の状況

総務省消防庁では、平成17（2005）年1月から、救急搬送された心肺機能停止傷病者の救命率等の状況について、「ウツタイン様式」(*)に基づき調査を実施しています。

今般、2005年から2007年までの3か年分のデータが集積されたことを受け、一般市民により心肺機能停止の時点が目撃された心原性的心肺機能停止傷病者の救命率等の状況について取りまとめましたので、公表いたします。

※心肺機能停止傷病者搬送の記録に関する統一的なガイドライン。

1990年にノルウェー「ウツタイン修道院」で開催された国際蘇生会議で提唱された。

《資料》

- 心肺機能停止傷病者の救命率等の状況(ポイント)
- 心肺機能停止傷病者の救命率等の状況(本文)



(連絡先)

消防庁救急企画室

担当：溝口専門官、小坂橋係長、垣内事務官

電話：03-5253-7529

FAX：03-5253-7539

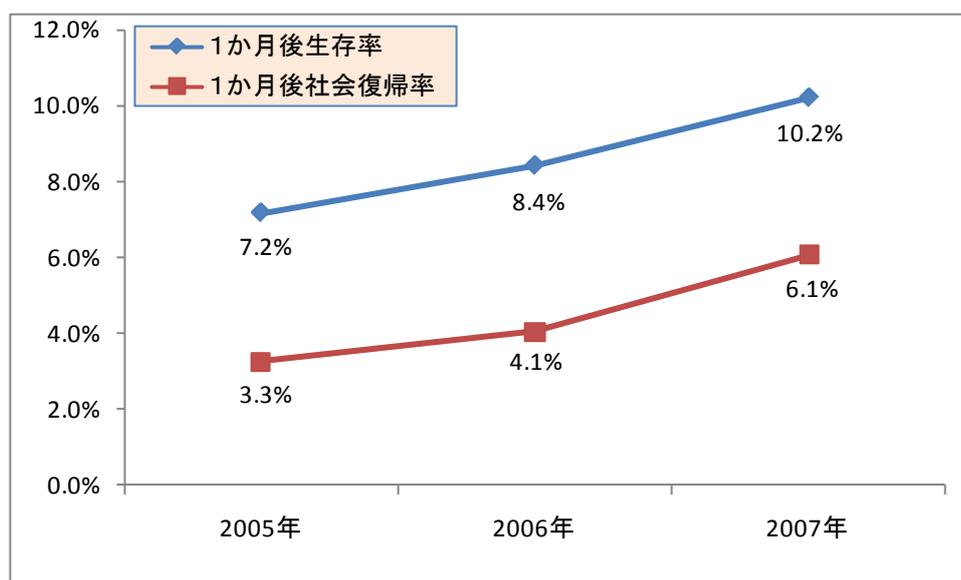
心肺機能停止傷病者の救命率等の状況(ポイント)

1. 心肺機能停止傷病者の1か月後生存率及び社会復帰率は年々上昇

2007年中に救急搬送された心肺機能停止傷病者搬送人員のうち、心原性かつ一般市民により目撃のあった症例の1か月後生存率は、10.2%と過去3か年のうち最も高く、2005年中と比べ、約1.4倍(3.0ポイント上昇)となっています。

また、1か月後社会復帰率についても、6.1%と過去3か年のうち最も高く、2005年中と比べ、約1.8倍(2.8ポイント上昇)となっています。

心原性かつ一般市民による目撃のあった症例の1か月後生存率及び社会復帰率



2. 一般市民による応急手当の重要性

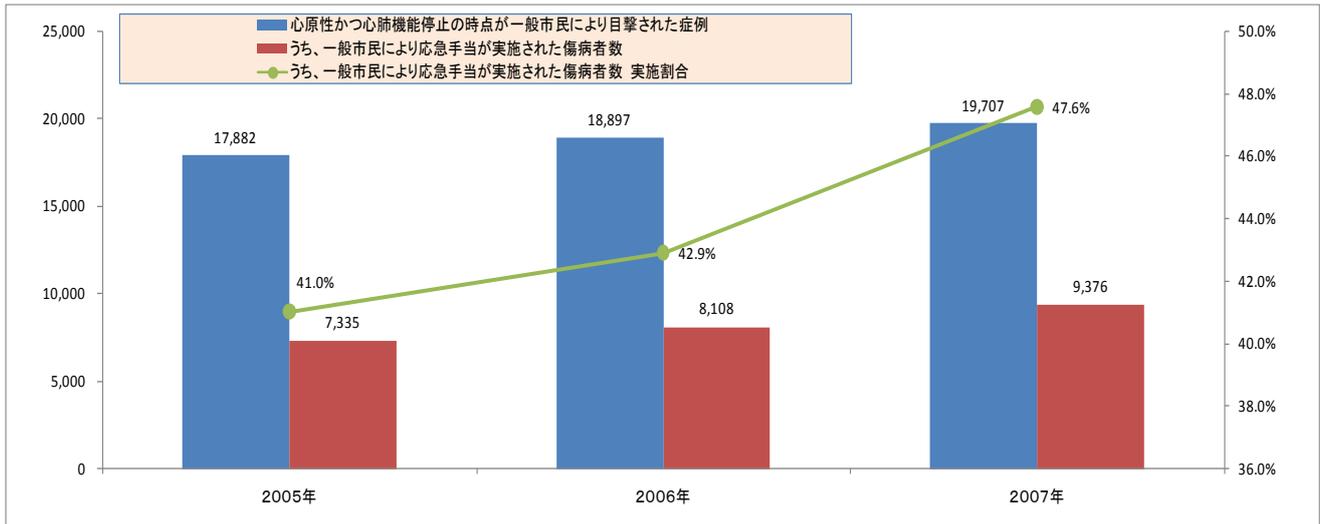
一般市民による応急手当が行われた場合の1か月後生存率は、2005年において8.6%、2006年において10.1%、2007年において12.2%で、行われなかった場合と比べて、それぞれ約1.4倍(2.4ポイント)、約1.4倍(2.9ポイント)、約1.5倍(3.8ポイント)高くなっています。

また、1か月後社会復帰率についても2005年において4.6%、2006年において5.6%、2007年において7.9%で、行われなかった場合と比べて、それぞれ約1.9倍(2.2ポイント)、約1.9倍(2.7ポイント)、約1.8倍(3.5ポイント)高くなっています。

このように、一般市民(現場に居合わせた方)による迅速な救命手当は、救命や社会復帰のために非常に重要であると言えます。

なお、2007年中の救命講習修了者数は、150万人を超える157万2,328人と過去最高であり、また、心原性かつ一般市民により目撃のあった心肺機能停止傷病者のうち、一般市民による応急手当の実施率も、2005年において41.0%、2006年において42.9%、2007年において47.6%と年々増加しており、救命率の向上に繋がる大きな要因となっています。

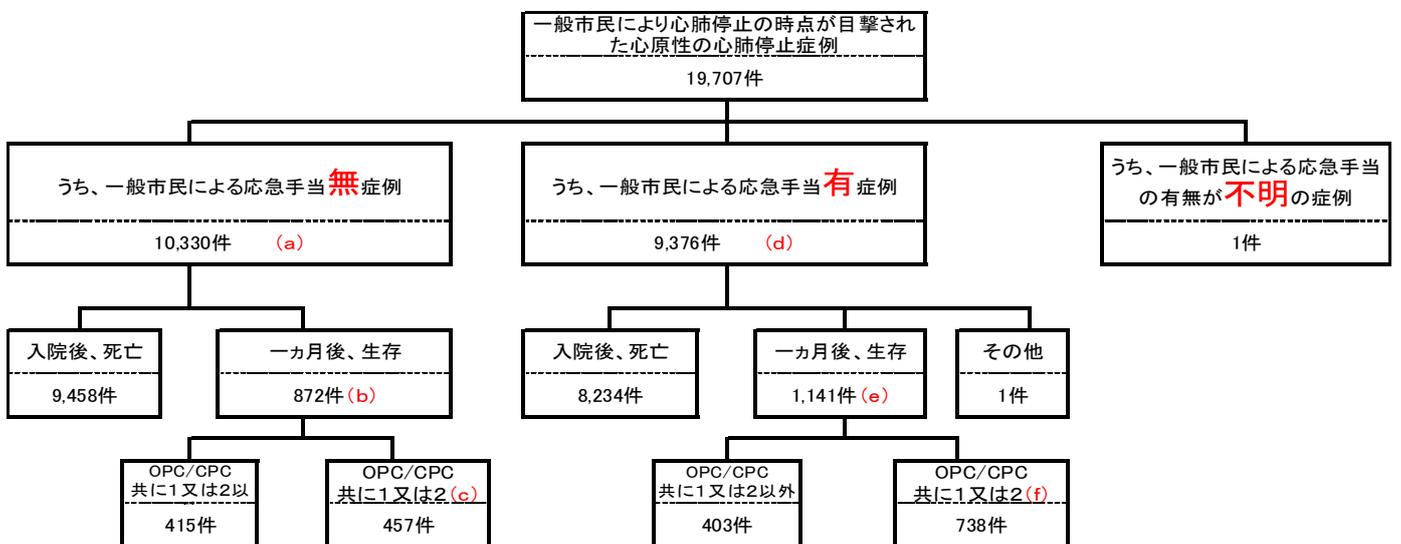
心原性かつ一般市民により目撃のあった心肺機能停止傷病者のうち、
一般市民による応急手当の実施件数（割合）の年次推移



一般市民による応急手当の実施の有無別（2005年～2007年）

	心原性でかつ心肺停止の時点が一般市民により目撃された症例										
	うち一般市民による応急処置あり	1か月後生存者数		1か月後社会復帰者数		うち一般市民による応急処置なし	1か月後生存者数		1か月後社会復帰者数		
		1か月後生存率	1か月後社会復帰率	1か月後生存率	1か月後社会復帰率						
2005年	17,882	7,335	631	8.6%	334	4.6%	10,547	651	6.2%	253	2.4%
2006年	18,897	8,108	819	10.1%	456	5.6%	10,789	772	7.2%	312	2.9%
2007年	19,707	9,376	1,141	12.2%	738	7.9%	10,330	872	8.4%	457	4.4%

一般市民による応急手当の実施の有無別（2007年ウツタイン統計データ）



生存率 : $b / a \times 100 = 8.4 \%$

生存率 : $e / d \times 100 = 12.2 \%$

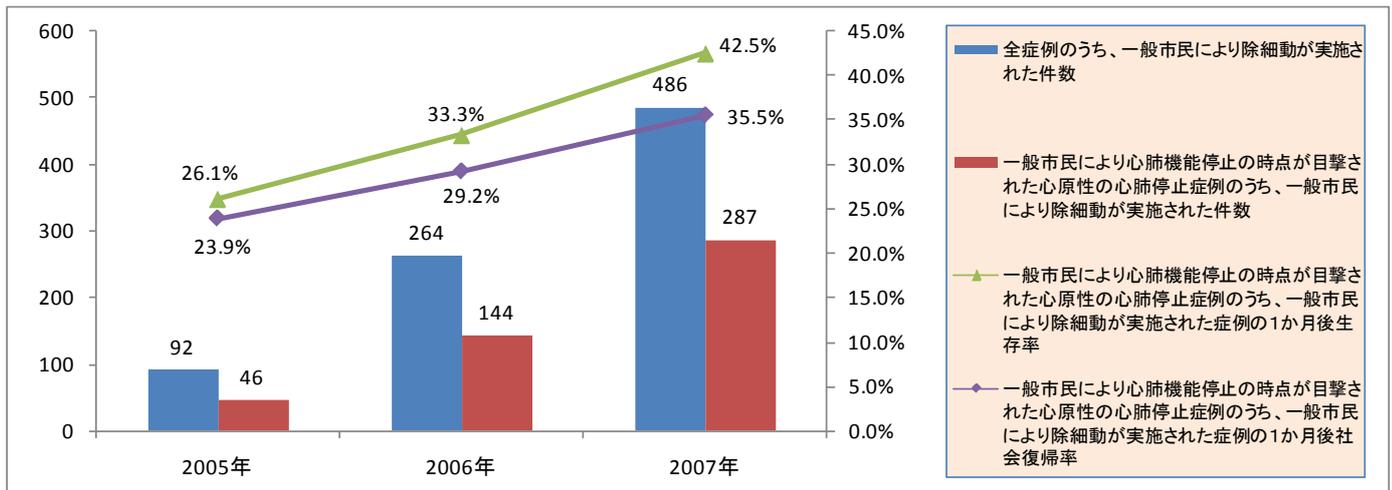
社会復帰率 : $c / a \times 100 = 4.4 \%$

社会復帰率 : $f / d \times 100 = 7.9 \%$

3. 一般市民による除細動実施件数の増加

年々、AED（自動体外式除細動器）が公共施設や事業所等さまざまな個所に配備されてきていることから、一般市民による除細動の件数は、2005年の92件、2006年264件、2007年486件と着実に増加しております。

一般市民により除細動が実施された件数の推移



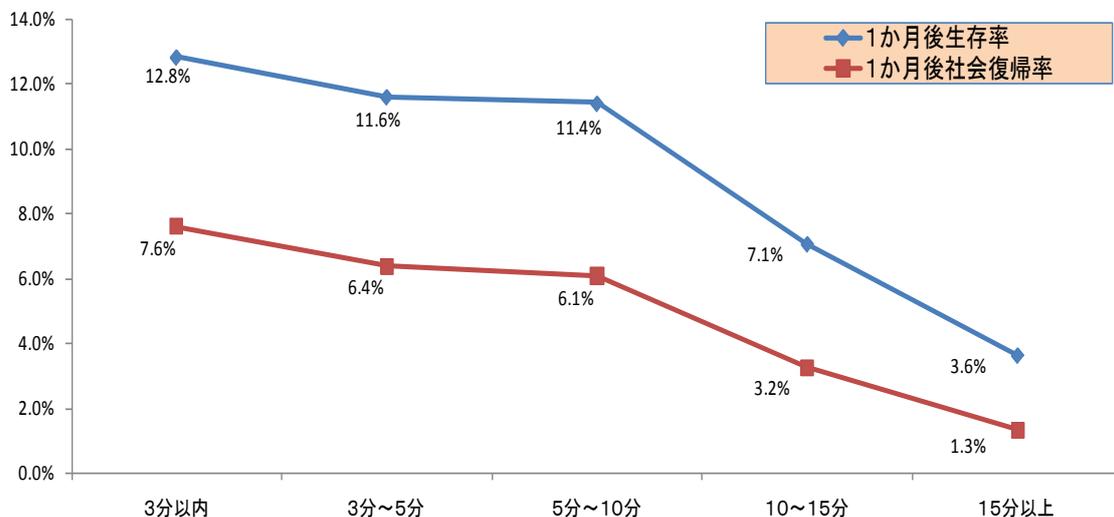
4. 心肺蘇生は早期実施が有効

目撃のあった時刻から救急隊員が心肺蘇生を開始した時点までの時間の区分ごとに1か月後生存率を比較すると、5分から10分までが11.4%であったのに対し、10分から15分までは7.1%と約0.6倍（-4.3ポイント）となっています。

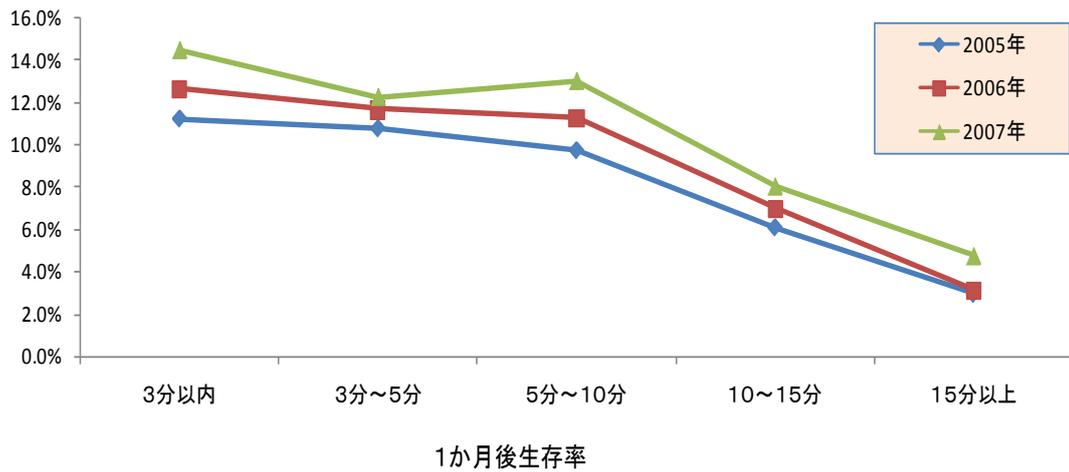
さらに、1か月後社会復帰率を比較すると、5分から10分までが6.1%であったのに対し、10分から15分までは3.2%と約0.5倍（-2.9ポイント）となっています。

また、3か年の推移をみると、いずれの時間区分においても1か月後生存率及び社会復帰率が上昇しています。

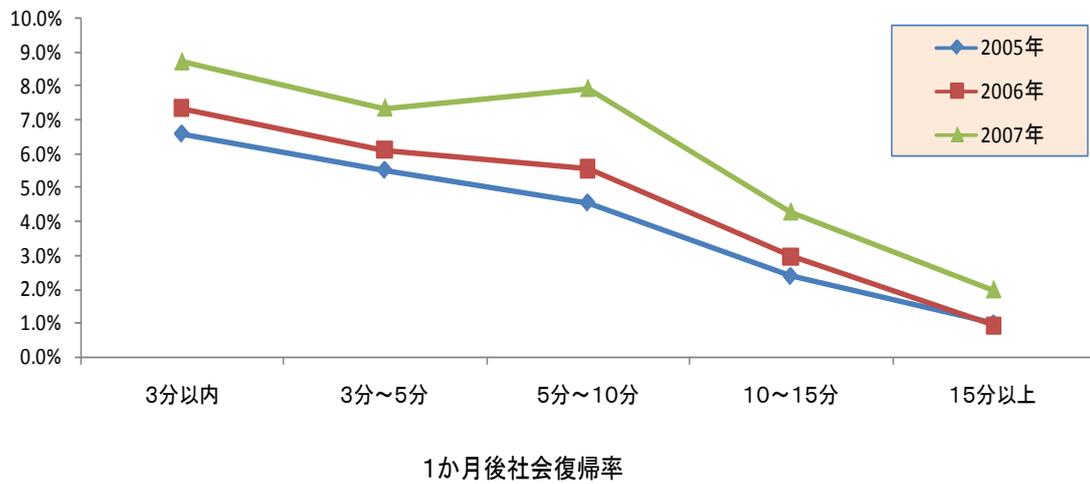
目撃のあった時刻から救急隊員が心肺蘇生を開始した時点までの時間の区分ごとの1か月後生存率及び社会復帰率（3か年合計）



目撃のあった時刻から救急隊員が心肺蘇生を開始した時点までの時間の区分ごとの
1か月後生存率(各年)



目撃のあった時刻から救急隊員が心肺蘇生を開始した時点までの時間の区分ごとの
1か月後社会復帰率(各年)



●ウツタイン様式

「ウツタイン様式」とは、心肺機能停止症例について地域間・国際間での蘇生率等の統計比較を可能とするために、その原因別（心臓に原因があるものかそれ以外か）の分類、心肺機能停止時点の目撃の有無、バイスタンダー（その場に居合わせた人）や救急隊員による心肺蘇生の有無やその開始時期、除細動の有無などに応じた傷病者の経過の記録に関するガイドライン。1990年にノルウェーの「ウツタイン修道院」で開催された国際蘇生会議において提唱されたことからこのように呼ばれる。

救急搬送の対象となった心肺機能停止症例について、海外では、都市や地域単位、病院単位で導入した例はあるものの、国単位で情報収集するのはわが国が初めて。

●心肺機能停止

脈拍が触知出来ない、反応が無い（意識が無い）、無呼吸あるいはあえぎ呼吸（死戦期呼吸）で、確認される心臓機能の機械的な活動の停止をいう。

●A E D

A E D：自動体外式除細動器（Automated External Defibrillator）

小型の機器で、傷病者の胸に貼ったパッドから自動的に心臓の状態を判断し、心室細動や無脈性心室頻拍の不整脈があったと判断された場合は、電気ショックを心臓に与える機能を持っている。

●一般市民による応急手当

胸骨圧迫、人工呼吸などの心肺蘇生法及びA E Dによる除細動の実施をいう。

※胸骨圧迫、人工呼吸、除細動のいずれかが実施された場合に「一般市民による応急手当あり」としている。

●社会復帰率

脳機能カテゴリー（C P C）、全身機能カテゴリー（O P C）が共に1又は2であった者の占める比率をいう。

●C P C、O P C

グラスゴー・ピッツバーグ脳機能・全身機能カテゴリー（The Glasgow - Pittsburgh Outcome Categories）は、心肺蘇生が成功した傷病者のその後の生活の質（Q O L：Quality of Life）を評価するために広く用いられている分類法。

脳機能カテゴリー（C P C：Cerebral Performance Categories）

脳に関する機能を評価する分類法。

全身機能カテゴリー（O P C：Overall Performance Categories）

脳および脳以外の状態も類別し、身体全体としての機能を評価する分類法。

●脳機能カテゴリー(CPC)

(1) CPC1:機能良好

意識は清明、普通の生活ができ、労働が可能である。障害があるが軽度の構音障害、脳神経障害、不完全麻痺などの軽い神経障害あるいは精神障害まで。

(2) CPC2:中等度障害

意識あり。保護された状況でパートタイムの仕事ができ、介助なしに着替え、旅行、炊事などの日常生活ができる。片麻痺、痙攣失調、構音障害、嚥下障害、記憶力障害、精神障害など。

(3) CPC3:高度障害

意識あり。脳の障害により、日常生活に介助を必要とする。少なくとも認識力は低下している。高度な記憶力障害や痴呆、Looked-in症候群のように目でのみ意思表示ができるなど。

(4) CPC4:昏睡

昏睡、植物状態。意識レベルは低下、認識力欠如、周囲との会話や精神的交流も欠如。

(5) CPC5:死亡、若しくは脳死

●全身機能カテゴリー(OPC)

(1) OPC1:機能良好

健康で意識清明。正常な生活を営む。CPC1であるとともに脳以外の原因による軽度の障害。

(2) OPC2:中等度障害

意識あり。CPC2の状態。あるいは脳以外の原因による中等度の障害、若しくは両者の合併。介助なしに着替え、旅行、炊事などの日常生活ができる。保護された状況でパートタイムの仕事ができるが厳しい仕事はできない。

(3) OPC3:高度障害

意識あり。CPC3の状態。あるいは脳以外の原因による高度の障害、若しくは両者の合併。日常生活に介助が必要。

(4) OPC4:昏睡

CPC4に同じ。

(5) OPC5:死亡、もしくは脳死

CPC5に同じ。

心肺機能停止傷病者の救命率等の状況

総務省消防庁救急企画室

はじめに

「ウツタイン様式」とは、心肺機能停止症例をその原因別（心臓に原因があるものかそれ以外か）に分類するとともに、心肺停止時点の目撃の有無、バイスタンダー（その場に居合わせた人）や救急隊員による心肺蘇生の有無やその開始時期、初期心電図の波形や除細動の有無などに応じて傷病者の経過を詳細に記録することにより、地域間・国際間での蘇生率等の統計比較を可能とする調査統計様式であり、1990年にノルウェーの「ウツタイン修道院」で開催された国際蘇生会議において提唱されたものである。

消防庁では、平成17年1月より、救急救命処置等による救命効果の客観的・医学的な把握や評価、地域間・国際間の比較・検証をより正確に行うため、消防庁救急調査オンライン処理システムにて収集を実施している。平成18年9月には、平成17年(2005年)中のデータを基に様々な条件下での救急救命処置の生存率への効果の分析を行い、暫定的な結果を試行解析例としてとりまとめ、また、平成19年9月には、平成17年(2005年)中のデータ及び平成18年(2006年)中の速報データを基に、結果をとりまとめたところである。

しかしながら、平成19年度に発足した「ウツタイン統計活用検討会」において、データのクリーニング方法や公表のあり方について、さらに検討を進めるべきであるとの指摘がなされ、消防庁としては、平成20年度に「救急統計活用検討会ウツタイン統計作業部会」を設置し、引き続き検討を実施している。

平成20年度の検討の中で、より質の高いウツタイン統計データを確保するために、データのクリーニングについての基本方針が示されたことを受け、消防庁としては、平成17年(2005年)からの全てのウツタインデータを改めて見直し、全てのウツタイン統計データの再集計を行った。さらに、救急救命士が行う救急救命処置の効果等について、データに基づくより適切な客観的評価を行っていくために、1か月後の生存率だけでなく、新たに、社会復帰率等を集計し、その結果について、取りまとめたものである。

目 次

はじめに	2
------	---

第一章 用語の定義及び収集方法について

1. ウツイン様式とは	6
2. 各用語の定義について	6
3. 収集方法、データクリーニング基本方針について	9

第二章 集計結果について

《総論》

1. 収集データ数について	11
2. 心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例	12
3. 2.のうち、一般市民による応急手当の実施の有無別	12
4. 2.のうち、救急隊員による心肺蘇生の開始時点別	13
5. 2.のうち、救急隊活動時における除細動実施の有無別	14
6. 2.のうち、一般市民による除細動の実施の有無別	14
7. 2.のうち、都道府県別（3か年集計値）	14
8. 全症例のうち、都道府県別の一般市民による除細動実施件数	15

《各集計結果》（別紙）

1. 別紙1 心肺機能停止傷病者全搬送人員のうち、性別件数
2. 別紙1-1 心肺機能停止傷病者全搬送人員のうち、年齢区分別件数
3. 別紙1-2 心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例の性別及び年齢区分別件数と1か月後生存率及び1か月後社会復帰率

4. 別紙2 心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率
5. 別紙2-1 心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち、初期心電図波形がVF及び無脈性VTであった症例の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率
6. 別紙3 心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち、一般市民による応急手当が行われた場合の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率
7. 別紙3-1 心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち、初期心電図波形がVF及び無脈性VTであった症例の一般市民による応急手当が行われた場合の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率
8. 別紙4 心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち、救急隊員による心肺蘇生の開始時点における1か月後生存率及び1か月後社会復帰率
9. 別紙4-1 心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち、初期心電図波形がVF及び無脈性VTであった症例の救急隊員による心肺蘇生の開始時点における1か月後生存率及び1か月後社会復帰率
10. 別紙4-2 心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち、救急隊員による心肺蘇生の開始時点における1か月後生存率及び1か月後社会復帰率及び心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち、初期心電図波形がVF及び無脈性VTであった症例の救急隊員による心肺蘇生の開始時点における1か月後生存率及び1か月後社会復帰率(3か年集計)
11. 別紙5 心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち、救急隊活動時における除細動実施症例の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率

12. 別紙5-1 心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち、初期心電図波形がVF及び無脈性VTであった症例の救急隊活動時における除細動実施症例の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率
13. 別紙6 心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち、一般市民による除細動が行われた場合の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率
14. 別紙6-1 心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち、初期心電図波形がVF及び無脈性VTであった症例の一般市民による除細動が行われた場合の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率
15. 別紙7 心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率（3か年集計、都道府県別）
16. 別紙7-1 心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち、初期心電図波形がVF及び無脈性VTであった症例の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率（3か年集計、都道府県別）
17. 別紙8 心肺機能停止傷病者全搬送人員のうち、一般市民により除細動が実施された件数（都道府県別）

第一章 用語の定義及び収集方法について

1. ウツタイン様式とは

「ウツタイン様式」とは、心肺機能停止症例について地域間・国際間での蘇生率等の統計比較を可能とするために、その原因別（心臓に原因があるものかそれ以外か）の分類、心肺機能停止時点の目撃の有無、バイスタンダー（その場に居合わせた人）や救急隊員による心肺蘇生の有無やその開始時期、除細動の有無などに応じた傷病者の経過の記録に関するガイドライン。1990年にノルウェーの「ウツタイン修道院」で開催された国際蘇生会議において提唱されたことからこのように呼ばれる。

救急搬送の対象となった心肺機能停止症例について、海外では、都市や地域単位、病院単位で導入した例はあるものの、国単位で情報収集するのはわが国が初めてである。

2. 各用語の定義について

●心肺機能停止

脈拍が触知出来ない、反応が無い（意識が無い）、無呼吸あるいはあえぎ呼吸（死戦期呼吸）で、確認される心臓機能の機械的な活動の停止をいう。

●V F、V T（脈なし）症例

V F：心室細動（Ventricular Fibrillation）

V T（脈なし）：無脈性心室頻拍（Pulseless Ventricular Tachycardia）

●A E D

A E D：自動体外式除細動器（Automated External Defibrillator）

小型の機器で、傷病者の胸に貼ったパッドから自動的に心臓の状態を判断し、もし心室細動や無脈性心室頻拍の不整脈があったと判断された場合は、電気ショックを心臓に与える機能を持っている。

●一般市民による応急手当

胸骨圧迫、人工呼吸等の心肺蘇生法及びAEDによる除細動の実施をいう。

※胸骨圧迫、人工呼吸、除細動のいずれかが実施された場合に「一般市民による応急手当あり」としている。

●一般市民による目撃

心肺機能停止の瞬間を目撃、または音を聞いた人のことをいう。

「目撃、または音を聞いた」に該当する例は、次のとおりである。

- 家族の目前で「倒れた」、「ぐったりした」等、また、物音を聞いてすぐに駆けつけたところ倒れていた場合。
- 交通事故等の目撃者からの通報で、救急隊（救急隊と連携して出場した消防隊も含む、以下同じ。）到着時には心肺機能停止状態であった場合。
- 通報時、通報者が生存を確認できたが、救急隊到着時には心肺機能停止状態であった場合。

●除細動実施症例

AED又は除細動器において、除細動が必要と判断され、実施したもの。

●除細動未実施症例

AED又は除細動器において、除細動が必要でないと判断されたもの、又は、AEDを装着していないもの。

●救急隊等

救急隊もしくは救急隊と連携して出場した消防隊をいう。

●初期心電図波形

救急隊等が傷病者に接触し、最初に確認した心電図波形をいう。

※救急隊到着前に、一般市民により除細動が行われ、傷病者の心拍が再開した症例については、心電図波形上、VF、VT(脈なし)が救急隊によって確認されないため、「初期心電図波形が、VF、VT(脈なし)」には含まれない。

●社会復帰者

脳機能カテゴリー（CPC）、全身機能カテゴリー（OPC）が共に1又は2であったものをいう。

●CPC、OPC

グラスゴー・ピッツバーグ脳機能・全身機能カテゴリー（The Glasgow - Pittsburgh Outcome Categories）は、心肺蘇生が成功した傷病者のその後の生活の質（QOL：Quality of Life）を評価するために広く用いられている分類法であり、その項目は、以下のとおりである。

脳機能カテゴリー（CPC：Cerebral Performance Categories）

脳に関する機能を評価する分類法をいう。

全身機能カテゴリー（OPC：Overall Performance Categories）

脳および脳以外の状態も類別し、身体全体としての機能を評価する分類法をいう。

●脳機能カテゴリー（CPC）

(1) **CPC1：機能良好**

意識は清明、普通の生活ができ、労働が可能である。障害があるが軽度の構音障害、脳神経障害、不完全麻痺などの軽い神経障害あるいは精神障害まで。

(2) **CPC2：中等度障害**

意識あり。保護された状況でパートタイムの仕事ができ、介助なしに着替え、旅行、炊事などの日常生活ができる。片麻痺、痙攣失調、構音障害、嚥下障害、記憶力障害、精神障害など。

(3) **CPC3：高度障害**

意識あり。脳の障害により、日常生活に介助を必要とする。少なくとも認識力は低下している。高度な記憶力障害や痴呆、Looked-in症候群のように目でのみ意思表示ができるなど。

(4) **CPC4：昏睡**

昏睡、植物状態。意識レベルは低下、認識力欠如、周囲との会話や精神的交流も欠如。

(5) **CPC5：死亡、若しくは脳死**

●全身機能カテゴリー（OPC）

(1) **OPC1：機能良好**

健康で意識清明。正常な生活を営む。CPC1であるとともに脳以外の原因による軽度の障害。

(2) **OPC2：中等度障害**

意識あり。CPC2の状態。あるいは脳以外の原因による中等度の障害、若しくは両者の合併。介助なしに着替え、旅行、炊事などの日常生活ができる。保護された状況でパートタイムの仕事ができるが厳しい仕事はできない。

(3) **OPC3：高度障害**

意識あり。CPC3の状態。あるいは脳以外の原因による高度の障害、若しくは両者の合併。日常生活に介助が必要。

(4) **OPC4：昏睡**

CPC4に同じ。

(5) **OPC5：死亡、もしくは脳死**

CPC5に同じ。

3. 収集方法、データクリーニング基本方針について

●収集方法

全国の消防本部が、「ウツタイン様式オンライン入力要領」に従ってデータを収集し、収集したデータを次のいずれかの方法により消防庁システムへ登録する。

ア) 消防庁オンラインシステムの登録画面にデータを直接入力し、そのデータを登録する。

イ) 国が提供している「救急調査オフライン処理システム」の登録画面にデータを入力し、そのデータを消防庁オンラインシステムに登録する。

ウ) 消防本部が独自に保有する統計システムを用いてデータを入力し、消防庁オンラインシステムに整合するようにデータ変換したものを登録する。

収集項目

事例No. _____	発生年月日 _____	年 月 日	性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	年齢 _____
救急救命士乗車	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	医師の乗車	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	医師の2次救命処置	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
1. 心停止の目撃					
<input type="checkbox"/> 目撃、または音を聞いた _____ 時 _____ 分					
<input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> その他のバイスタンダー(<input type="checkbox"/> 友人 <input type="checkbox"/> 同僚 <input type="checkbox"/> 通行人 <input type="checkbox"/> その他)					
<input type="checkbox"/> 消防隊 <input type="checkbox"/> 救急隊(<input type="checkbox"/> 救急救命士隊)					
<input type="checkbox"/> 既に心肺機能停止(発見時)					
2. バイスタンダーCPR <input type="checkbox"/> あり (<input type="checkbox"/> 心臓マッサージ <input type="checkbox"/> 人工呼吸 <input type="checkbox"/> 市民等による除細動) <input type="checkbox"/> なし					
バイスタンダーCPRまたは市民等による除細動開始時刻 _____ 時 _____ 分 <input type="checkbox"/> 確定 <input type="checkbox"/> 推定 <input type="checkbox"/> 不明					
<input type="checkbox"/> 口頭指導あり					
3. 初期心電図波形					
<input type="checkbox"/> VF(心室細動) <input type="checkbox"/> Pulseless VT(無脈性心室頻拍) <input type="checkbox"/> PEA(無脈性電氣的活動)					
<input type="checkbox"/> 心静止 <input type="checkbox"/> その他(_____)					
4. 救急救命処置等の内容					
<input type="checkbox"/> 除細動(<input type="checkbox"/> 二相性 <input type="checkbox"/> 単相性) 初回除細動実施時刻 _____ 時 _____ 分 施行回数 _____ 回					
実施者 <input type="checkbox"/> 救急救命士 <input type="checkbox"/> 救急隊員 <input type="checkbox"/> 消防職員 <input type="checkbox"/> その他					
<input type="checkbox"/> 気道確保 <input type="checkbox"/> 特定行為器具使用(<input type="checkbox"/> LM <input type="checkbox"/> 食道閉鎖式エアウェイ <input type="checkbox"/> 気管内チューブ)					
<input type="checkbox"/> 静脈路確保					
<input type="checkbox"/> 薬剤投与 初回投与時刻 _____ 時 _____ 分 投与回数 _____ 回					
5. 時間経過					
覚知 _____ 時 _____ 分 現着 _____ 時 _____ 分 接触 _____ 時 _____ 分 CPR開始 _____ 時 _____ 分 病院収容 _____ 時 _____ 分					
6. 心停止の推定原因					
<input type="checkbox"/> 心原性: <input type="checkbox"/> 確定 <input type="checkbox"/> 除外診断による心原性					
<input type="checkbox"/> 非心原性: <input type="checkbox"/> 脳血管障害 <input type="checkbox"/> 呼吸器系疾患 <input type="checkbox"/> 悪性腫瘍 <input type="checkbox"/> 外因性 <input type="checkbox"/> その他(_____)					
7. 転帰及び予後					
・病院収容前の心拍再開 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし 初回心拍再開時刻 _____ 時 _____ 分					
<input type="checkbox"/> 1ヶ月予後 (回答: <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし)					
<input type="checkbox"/> 1ヶ月生存 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし					
○ <u>脳機能カテゴリー(CPC)</u>					
<input type="checkbox"/> CPC1 機能良好 <input type="checkbox"/> CPC2 中等度障害 <input type="checkbox"/> CPC3 高度障害					
<input type="checkbox"/> CPC4 昏睡 <input type="checkbox"/> CPC5 死亡、もしくは脳死					
○ <u>全身機能カテゴリー(OPC)</u>					
<input type="checkbox"/> OPC1 機能良好 <input type="checkbox"/> OPC2 中等度障害 <input type="checkbox"/> OPC3 高度障害					
<input type="checkbox"/> OPC4 昏睡 <input type="checkbox"/> OPC5 死亡、もしくは脳死					

●データクリーニング基本方針

報告のあったデータを以下の方針に基づき、精査し、平成 17 年からの全てのウツタインデータを改めて見直し、全てのウツタイン統計データの再集計を行った。

ア) システムやコンバートによるエラーであることが明らかであるものについては、修正可能であれば修正、又は、各消防本部に確認し修正する。

イ) 各消防本部別・各項目別のエラー件数が、それぞれの消防本部における心肺機能停止症例数からみて 25%以上だった場合、当該消防本部に確認し修正する。

ウ) 最終的には都道府県にてデータを確認

第二章 集計結果について

1. 収集データ数について

心肺機能停止傷病者全搬送人員のうち、心原性的心肺機能停止症例、さらにそのうち、一般市民により目撃があった症例の3か年の推移は以下のとおりである。

	心肺機能停止傷病者全搬送人員数	うち、心原性的心肺機能停止症例		うち、心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例	
			割合		割合
2005年	102,738	56,412	54.9%	17,882	17.4%
2006年	105,942	57,182	54.0%	18,897	17.8%
2007年	109,461	59,001	53.9%	19,707	18.0%

心肺機能停止傷病者全搬送人員の性別、年齢区分別にみると、性別では、男性が約6割を占めており、年齢区分別では、80歳代が最も多くなっている。(別表1及び1-1参照)

また、心原性かつ一般市民に目撃された症例によると、症例数では、80歳代が最も多く、生存率では、10歳代が最も高くなっている。(別表1-2参照)

	男	女	合計
2005年	61,375	41,363	102,738
2006年	62,908	43,034	105,942
2007年	64,086	45,375	109,461

		2005年	2006年	2007年	合計
年齢区分	0~9	1,304	1,276	1,592	4,172
	10~19	874	879	884	2,637
	20~29	2,217	2,259	2,158	6,634
	30~39	3,116	3,328	3,359	9,803
	40~49	4,699	4,680	4,875	14,254
	50~59	10,022	10,448	10,137	30,607
	60~69	15,821	15,610	15,778	47,209
	70~79	26,560	27,009	27,159	80,728
	80~89	27,567	28,962	30,848	87,377
	90~99	10,222	11,119	12,143	33,484
	100~	335	371	466	1,172
	その他	1	1	62	64
合計		102,738	105,942	109,461	318,141

		3か年集計											
		総件数	心原性かつ一般市民により目撃あり症例数										
			うち、男性						うち、女性				
			人数	1か月後生存者数		1か月後社会復帰者数		人数	1か月後生存者数		1か月後社会復帰者数		
1か月後生存率	1か月後社会復帰率	1か月後生存率		1か月後社会復帰率									
年齢区分	0～9	4,172	268	154	22	14.3%	13	8.4%	114	17	14.9%	5	4.4%
	10～19	2,637	263	192	65	33.9%	42	21.9%	71	27	38.0%	19	26.8%
	20～29	6,634	515	416	78	18.8%	54	13.0%	99	22	22.2%	13	13.1%
	30～39	9,803	1,240	992	181	18.2%	123	12.4%	248	50	20.2%	35	14.1%
	40～49	14,254	2,366	1,885	295	15.6%	208	11.0%	481	86	17.9%	52	10.8%
	50～59	30,607	5,833	4,664	741	15.9%	479	10.3%	1,169	154	13.2%	85	7.3%
	60～69	47,209	9,333	7,127	961	13.5%	536	7.5%	2,206	222	10.1%	106	4.8%
	70～79	80,728	15,008	10,198	787	7.7%	351	3.4%	4,810	316	6.6%	143	3.0%
	80～89	87,377	15,154	7,794	384	4.9%	119	1.5%	7,360	319	4.3%	114	1.5%
	90～99	33,484	6,276	2,139	59	2.8%	22	1.0%	4,137	98	2.4%	32	0.8%
100～	1,172	219	54	0	0.0%	0	0.0%	165	1	0.6%	0	0.0%	
その他	64	11	7	1	-	-	1	-	4	0	-	0	-
合計	318,141	56,486	35,622	3,574	10.0%	1,948	5.5%	20,864	1,312	6.3%	604	2.9%	

2. 心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例

一般市民により目撃された心原性症例のうちの1か月後生存者数及び1か月後社会復帰者数について3か年の推移は以下のとおり年々その割合が上昇している。(別紙2及び2-1参照)

	心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例	1か月後生存者数		1か月後社会復帰者数	
		1か月後生存率	1か月後社会復帰率	1か月後生存率	1か月後社会復帰率
2005年	17,882	1,282	7.2%	587	3.3%
2006年	18,897	1,591	8.4%	768	4.1%
2007年	19,707	2,013	10.2%	1,195	6.1%

3. 2.のうち、一般市民による応急手当の実施の有無別

一般市民による応急手当が行われた場合の1か月後生存率は2005年8.6%、2006年10.1%、2007年12.2%で、行われなかった場合と比べて、それぞれ約1.4倍(2.4ポイント)、約1.4倍(2.9ポイント)、約1.5倍(3.8ポイント)高くなっている。(別紙3及び3-1参照)

	心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例	うち、一般市民による応急処置あり						うち、一般市民による応急処置なし			
		1か月後生存者数		1か月後社会復帰者数		1か月後生存者数		1か月後社会復帰者数			
		1か月後生存率	1か月後社会復帰率	1か月後生存率	1か月後社会復帰率	1か月後生存率	1か月後社会復帰率				
2005年	17,882	7,335	631	8.6%	334	4.6%	10,547	651	6.2%	253	2.4%
2006年	18,897	8,108	819	10.1%	456	5.6%	10,789	772	7.2%	312	2.9%
2007年	19,707	9,376	1,141	12.2%	738	7.9%	10,330	872	8.4%	457	4.4%

4. 2. のうち、救急隊員による心肺蘇生の開始時点における時間区分別

救急隊員による心肺蘇生の開始時点についてみると、心肺機能停止時点が目撃されてから3分以内なら1か月後生存率は2005年11.3%、2006年12.6%、2007年14.5%に対し、15分以上なら2005年2.9%、2006年3.1%、2007年4.8%となっており、早期の心肺蘇生の重要性が明らかとなっている。（別紙4及び4-1、4-2参照）

2005年データ	救急隊員による心肺蘇生の開始時点における時間区分ごとの件数				
		1か月後生存者数		1か月後社会復帰者数	
			1か月後生存率		1か月後社会復帰率
3分以内	1,226	138	11.3%	81	6.6%
3分～5分	1,084	117	10.8%	60	5.5%
5分～10分	5,401	527	9.8%	247	4.6%
10～15分	5,701	348	6.1%	137	2.4%
15分以上	4,373	129	2.9%	44	1.0%
救急隊によるCPRなし	46				
不明	51				

2006年データ	救急隊員による心肺蘇生の開始時点における時間区分ごとの件数				
		1か月後生存者数		1か月後社会復帰者数	
			1か月後生存率		1か月後社会復帰率
3分以内	1,377	174	12.6%	101	7.3%
3分～5分	1,278	149	11.7%	78	6.1%
5分～10分	5,793	654	11.3%	322	5.6%
10～15分	5,903	414	7.0%	175	3.0%
15分以上	4,417	139	3.1%	42	1.0%
救急隊によるCPRなし	103				
不明	26				

2007年データ	救急隊員による心肺蘇生の開始時点における時間区分ごとの件数				
		1か月後生存者数		1か月後社会復帰者数	
			1か月後生存率		1か月後社会復帰率
3分以内	1,341	194	14.5%	117	8.7%
3分～5分	1,223	150	12.3%	90	7.4%
5分～10分	5,909	769	13.0%	469	7.9%
10～15分	5,924	477	8.1%	254	4.3%
15分以上	4,522	216	4.8%	90	2.0%
救急隊によるCPRなし	698				
不明	90				

5. 2. のうち、救急隊活動時における除細動実施の有無別

救急隊活動時における除細動実施症例の1か月後生存率は2005年17.6%、2006年20.3%、2007年24.1%であり、行われなかった場合と比べて、それぞれ約5.2倍（14.2ポイント）、約5.3倍（16.5ポイント）、約4.7倍（19.0ポイント）高くなっている。（別紙5及び5-1参照）

	心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例										
		うち、救急隊活動時における除細動実施数					うち、救急隊活動時における除細動未実施数				
		1か月後生存者数	1か月後社会復帰者数	1か月後生存率		1か月後生存者数	1か月後社会復帰者数	1か月後生存率			
				1か月後生存率	1か月後社会復帰率			1か月後生存率	1か月後社会復帰率		
2005年	17,882	4,770	838	17.6%	436	9.1%	13,112	444	3.4%	151	1.2%
2006年	18,897	5,309	1,076	20.3%	568	10.7%	13,588	515	3.8%	200	1.5%
2007年	19,707	5,367	1,291	24.1%	845	15.7%	13,843	702	5.1%	341	2.5%

6. 2. のうち、一般市民による除細動の実施の有無別

一般市民による除細動が行われた場合の1か月後生存率は2005年26.1%、2006年33.3%、2007年42.5%で、行われなかった場合と比べて、それぞれ約3.8倍（19.0ポイント）、約4.1倍（25.1ポイント）、約4.4倍（32.8ポイント）高くなっている。（別紙6及び6-1参照）

	心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例										
		うち、一般市民による除細動が実施された件数					うち、一般市民による除細動が実施されなかった件数				
		1か月後生存者数	1か月後社会復帰者数	1か月後生存率		1か月後生存者数	1か月後社会復帰者数	1か月後生存率			
				1か月後生存率	1か月後社会復帰率			1か月後生存率	1か月後社会復帰率		
2005年	17,882	46	12	26.1%	11	23.9%	17,836	1,270	7.1%	576	3.2%
2006年	18,897	144	48	33.3%	42	29.2%	18,753	1,543	8.2%	726	3.9%
2007年	19,707	287	122	42.5%	102	35.5%	19,420	1,891	9.7%	1,093	5.6%

7. 2. のうち、都道府県別（3か年集計値）

ウツイン様式の導入にあたっては、その効果のひとつとして各地域の救急医療システムの比較が可能になるということがあるが、一般市民により目撃された心原性症例のうちの1か月後生存率及び社会復帰率について都道府県別に集計すると、母集団が少ない都道府県があるため、データのブレが大きく適切な比較ができないという問題があるところ。

そのため、今回、3か年分のデータを合わせて都道府県別に集計しましたが、都道府県別で正確な比較をするには、まだまだ母集団が少ないこと、更にデータの精度を向上させる必要があること等から、救急統計活用検討会ウツタイン統計作業部会において、都道府県別に単純比較を行うことについては適切でないと指摘されているところであり、データを活用するには十分に注意を払う必要がある。

さらに都道府県別の母集団が少なくなるため、また、救急隊到着前に、一般市民により除細動が行われ、傷病者の心拍が再開した症例については除かれるため、データの取り扱いには、一層注意を払う必要があるが、データの精度を標準化する目的で、初期心電図波形がVF又は無脈性VT症例のものについても都道府県別に集計を行っている。

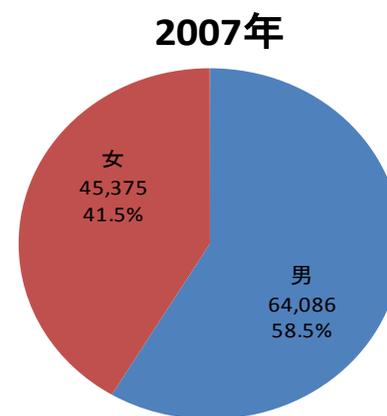
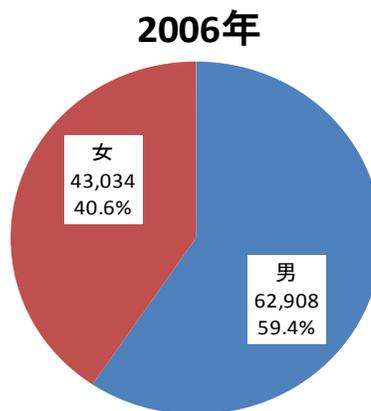
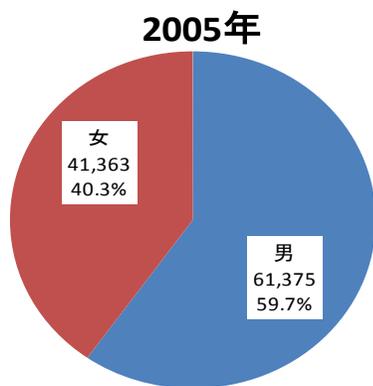
(別紙7及び7-1参照)

8. 全症例のうち、都道府県別の一般市民による除細動実施件数

年々、AED（自動体外式除細動器）が公共施設や事業所等さまざまな個所に配備されてきていることから、一般市民による除細動の件数は、2005年の92件、2006年264件、2007年486件と着実に増加している。(別紙8参照)

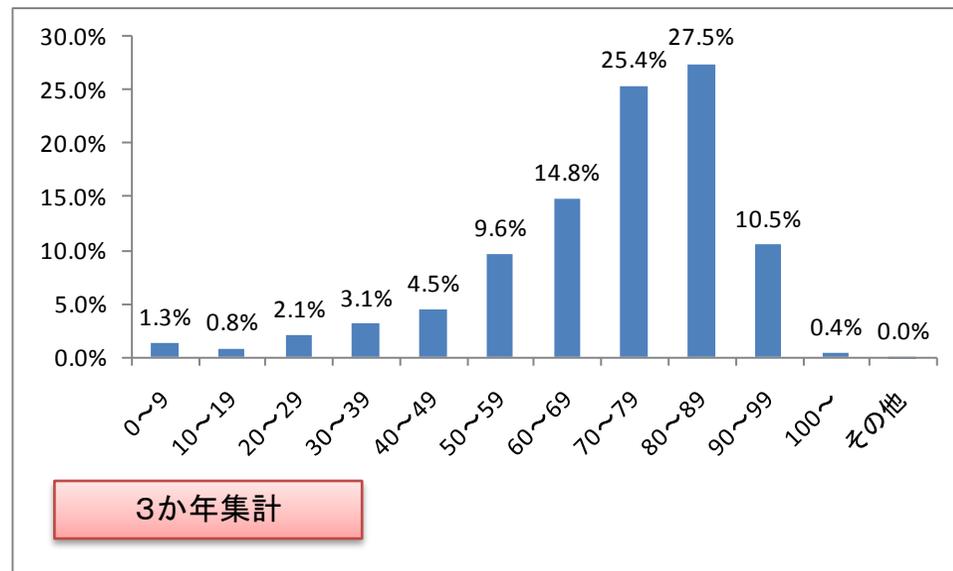
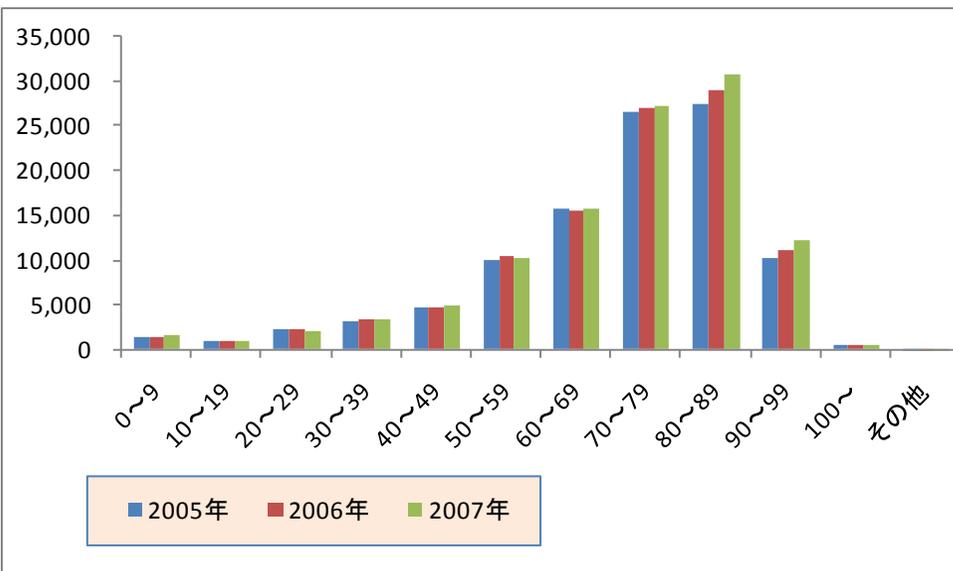
心肺機能停止傷病者全搬送人員のうち、性別件数

	男	女	合計
2005年	61,375	41,363	102,738
2006年	62,908	43,034	105,942
2007年	64,086	45,375	109,461



心肺機能停止傷病者全搬送人員のうち、年齢区分別件数

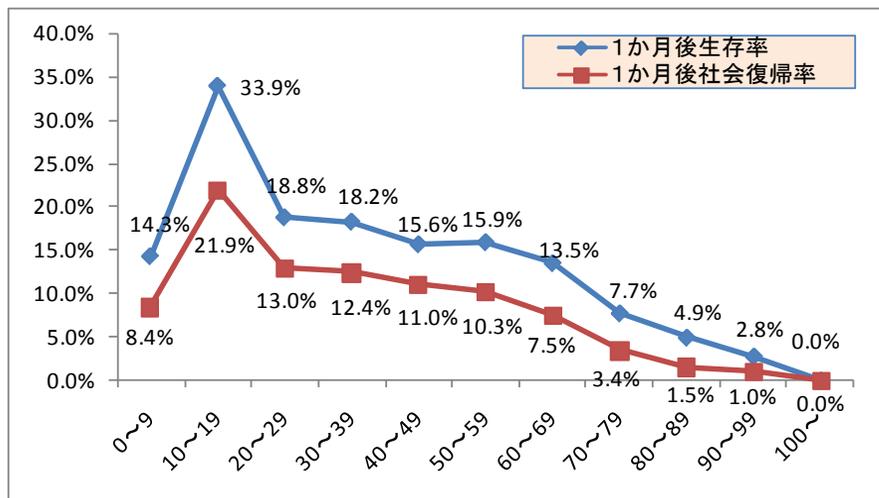
		2005年	2006年	2007年	合計
年齢区分	0～9	1,304	1,276	1,592	4,172
	10～19	874	879	884	2,637
	20～29	2,217	2,259	2,158	6,634
	30～39	3,116	3,328	3,359	9,803
	40～49	4,699	4,680	4,875	14,254
	50～59	10,022	10,448	10,137	30,607
	60～69	15,821	15,610	15,778	47,209
	70～79	26,560	27,009	27,159	80,728
	80～89	27,567	28,962	30,848	87,377
	90～99	10,222	11,119	12,143	33,484
	100～	335	371	466	1,172
その他	1	1	62	64	
合計		102,738	105,942	109,461	318,141



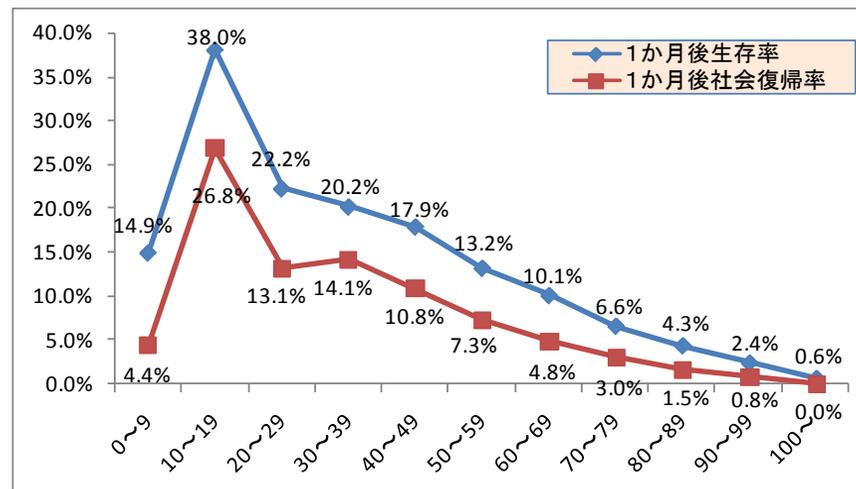
心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例の性別及び年齢区分別件数と1か月後生存率及び1か月後社会復帰率

年齢区分		3か年集計											
		総件数	心原性かつ一般市民により目撃あり症例数	男					女				
				人数	一ヶ月後生存あり	opc.cpc共に1又は2	一か月後生存率	一か月後社会復帰率	人数	一ヶ月後生存あり	opc.cpc共に1又は2	一か月後生存率	一か月後社会復帰率
0~9	4,172	268	154	22	13	14.3%	8.4%	114	17	5	14.9%	4.4%	
10~19	2,637	263	192	65	42	33.9%	21.9%	71	27	19	38.0%	26.8%	
20~29	6,634	515	416	78	54	18.8%	13.0%	99	22	13	22.2%	13.1%	
30~39	9,803	1,240	992	181	123	18.2%	12.4%	248	50	35	20.2%	14.1%	
40~49	14,254	2,366	1,885	295	208	15.6%	11.0%	481	86	52	17.9%	10.8%	
50~59	30,607	5,833	4,664	741	479	15.9%	10.3%	1,169	154	85	13.2%	7.3%	
60~69	47,209	9,333	7,127	961	536	13.5%	7.5%	2,206	222	106	10.1%	4.8%	
70~79	80,728	15,008	10,198	787	351	7.7%	3.4%	4,810	316	143	6.6%	3.0%	
80~89	87,377	15,154	7,794	384	119	4.9%	1.5%	7,360	319	114	4.3%	1.5%	
90~99	33,484	6,276	2,139	59	22	2.8%	1.0%	4,137	98	32	2.4%	0.8%	
100~	1,172	219	54	0	0	0.0%	0.0%	165	1	0	0.6%	0.0%	
その他	64	11	7	1	1	-	-	4	0	0	-	-	
合計	318,141	56,486	35,622	3,574	1,948	10.0%	5.5%	20,864	1,312	604	6.3%	2.9%	

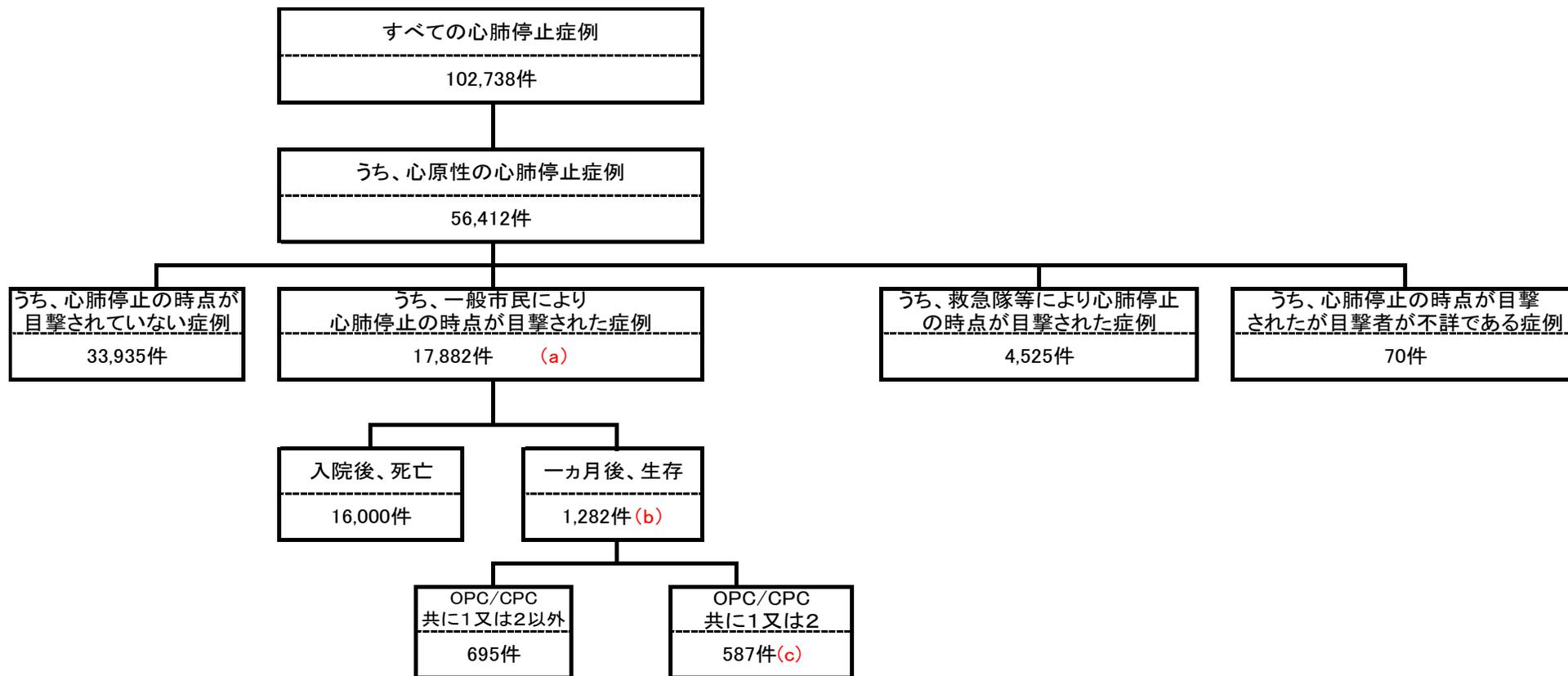
男性



女性



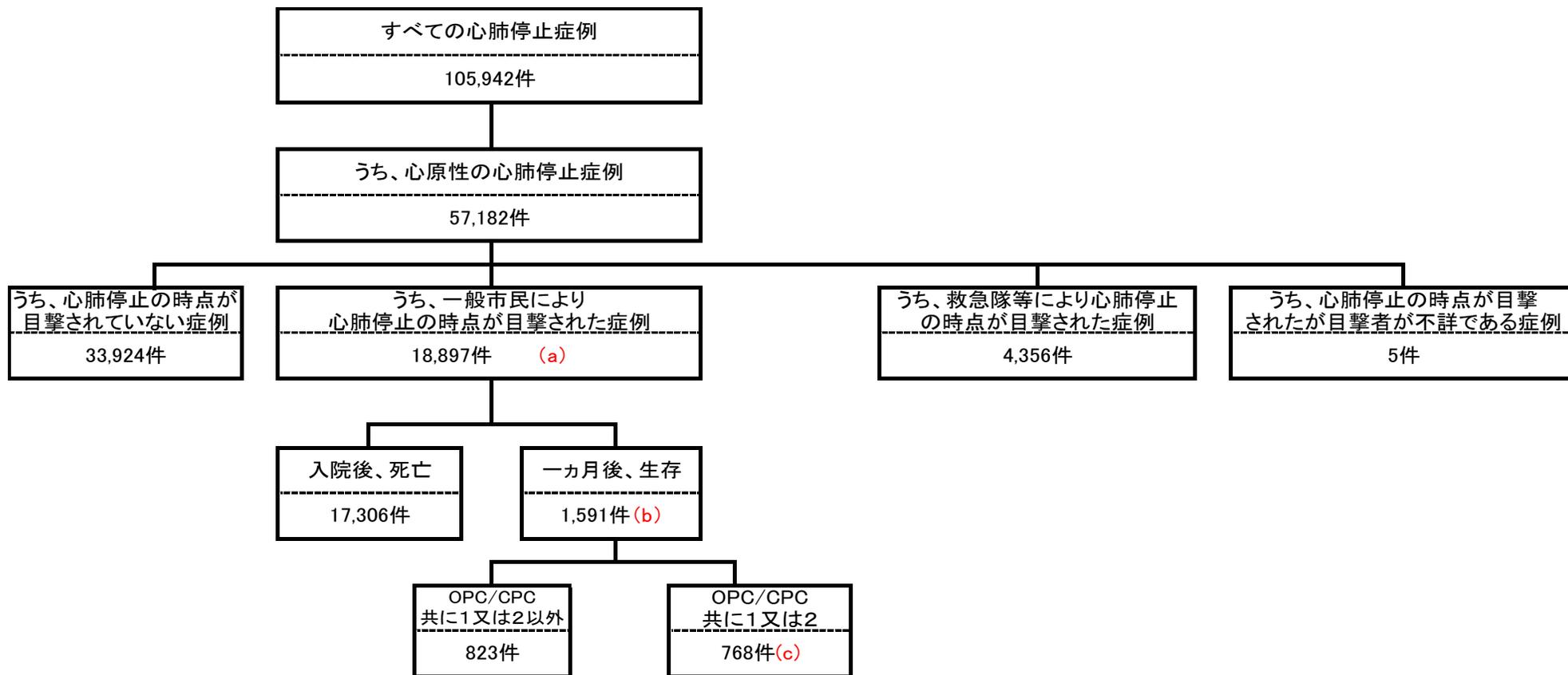
心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例の
1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 7.2 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 3.3 \%$$

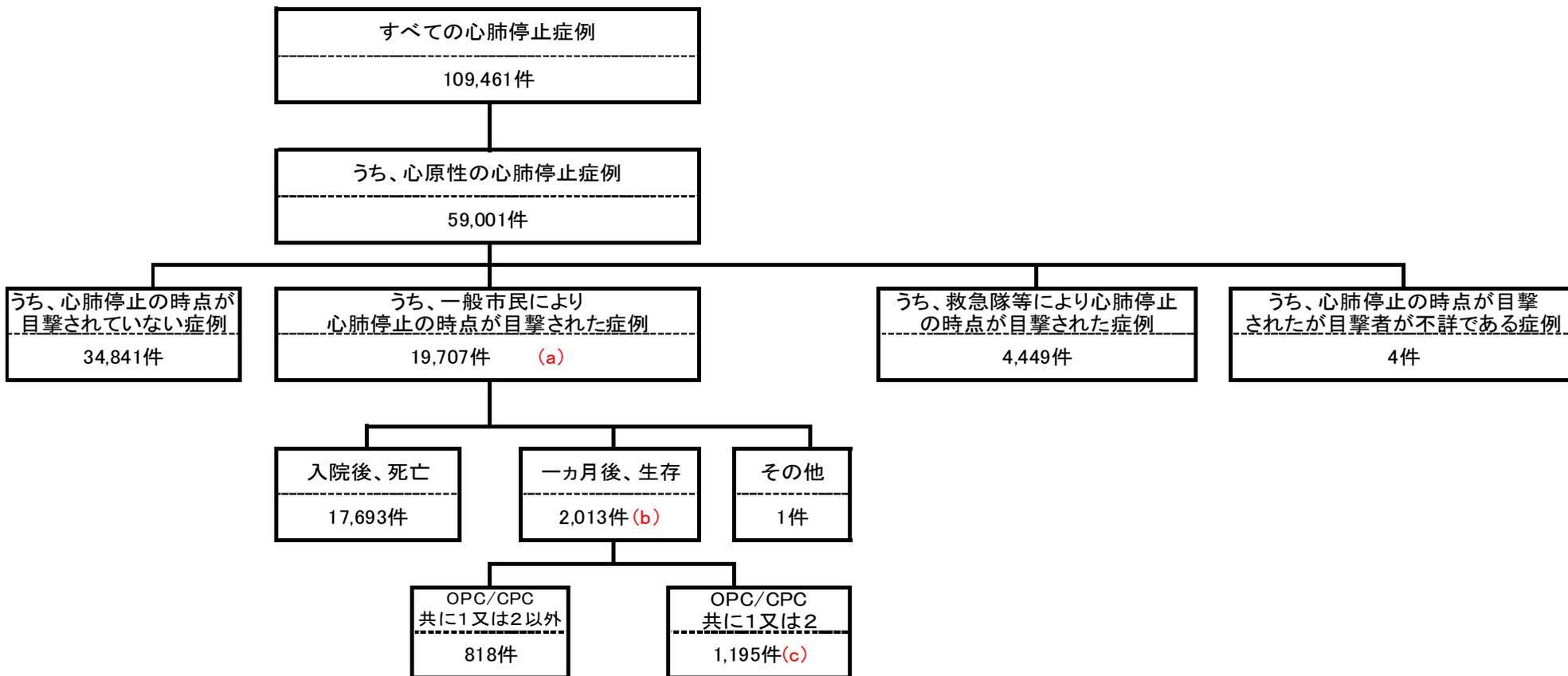
心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例の
1ヶ月後生存率及び1か月後社会復帰率



$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 8.4 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 4.1 \%$$

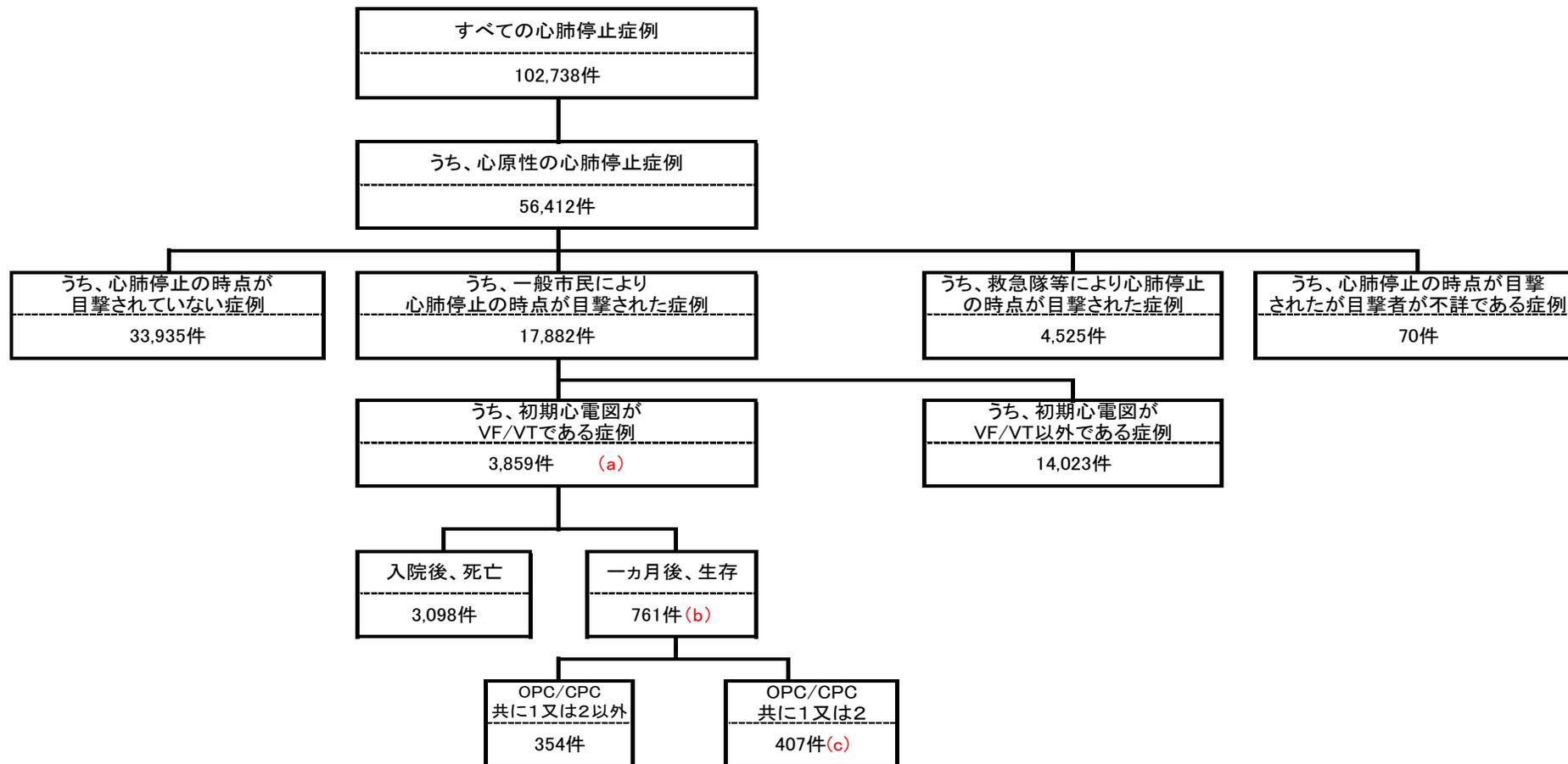
心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例の
1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 10.2 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 6.1\%$$

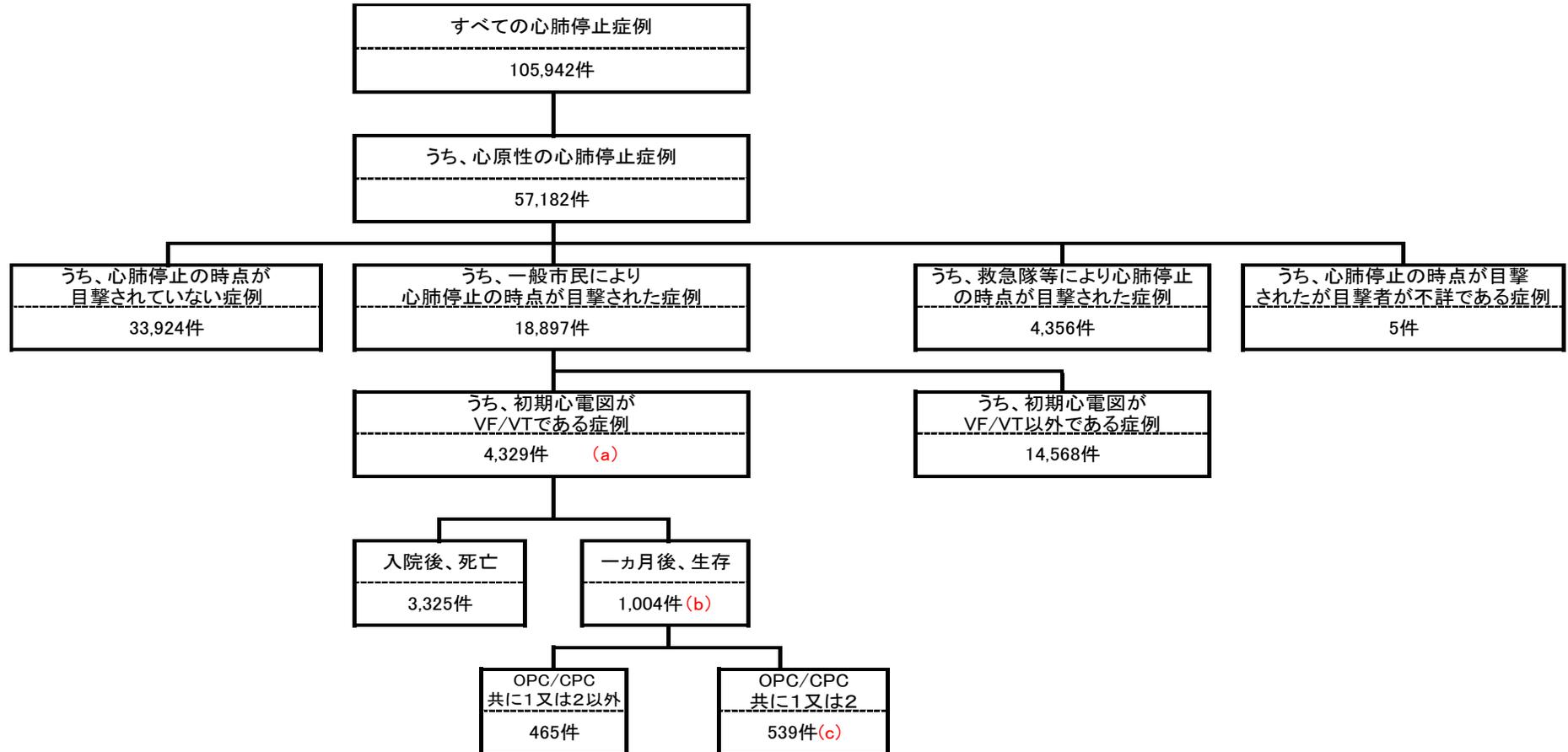
心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例の
1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 19.7 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 10.5 \%$$

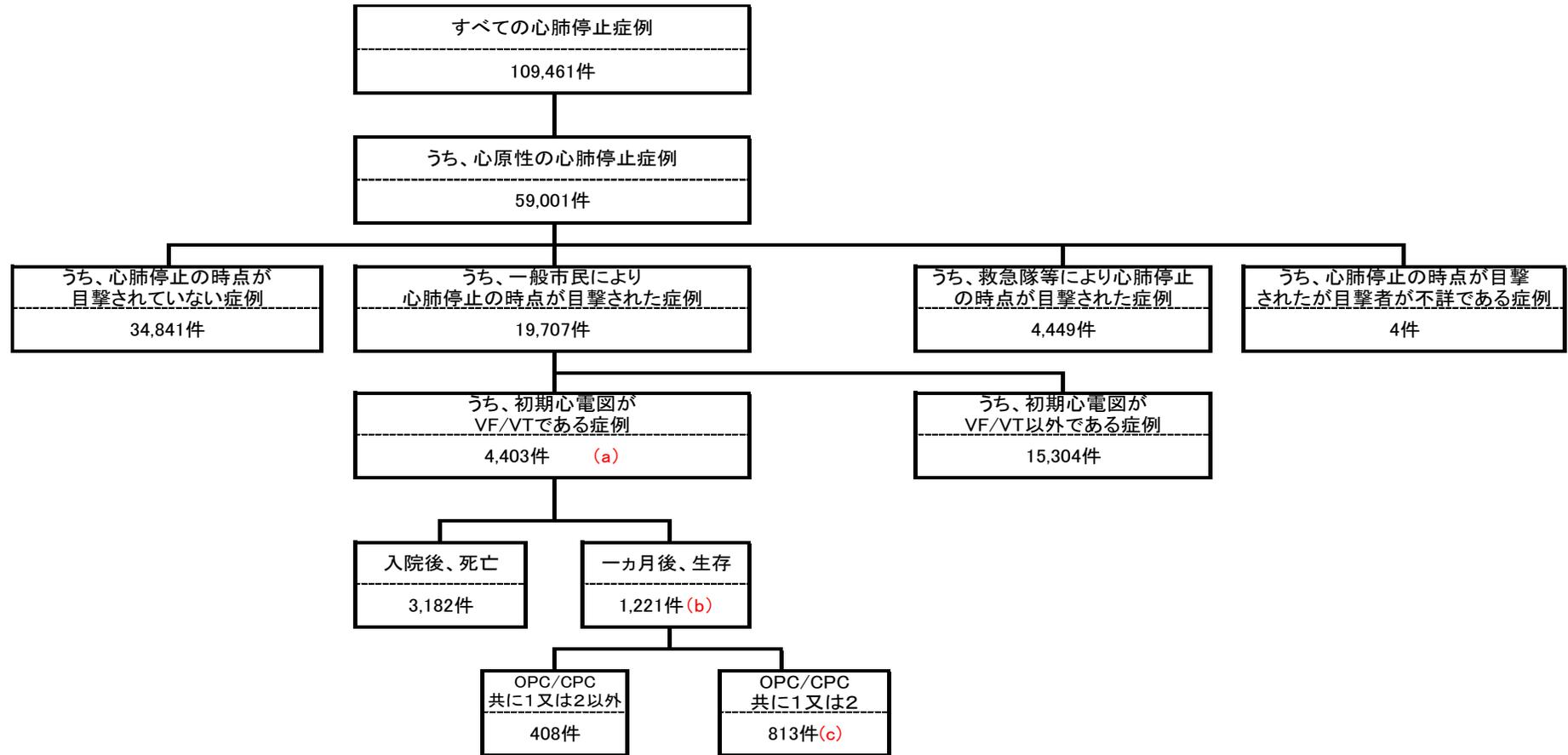
心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例の
1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 23.2 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 12.5 \%$$

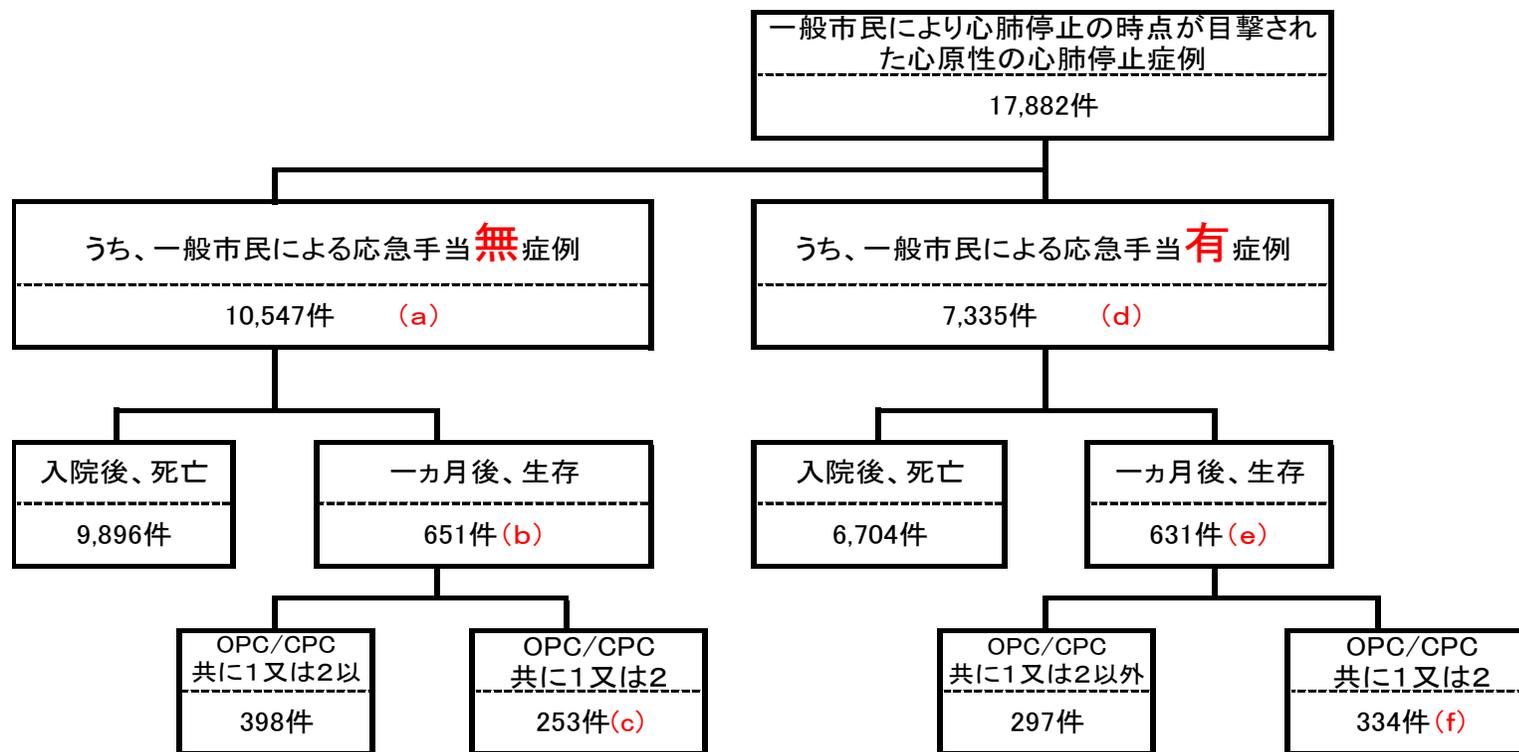
心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例の
1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 27.7 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 18.5 \%$$

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
一般市民による応急手当が行われた場合の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



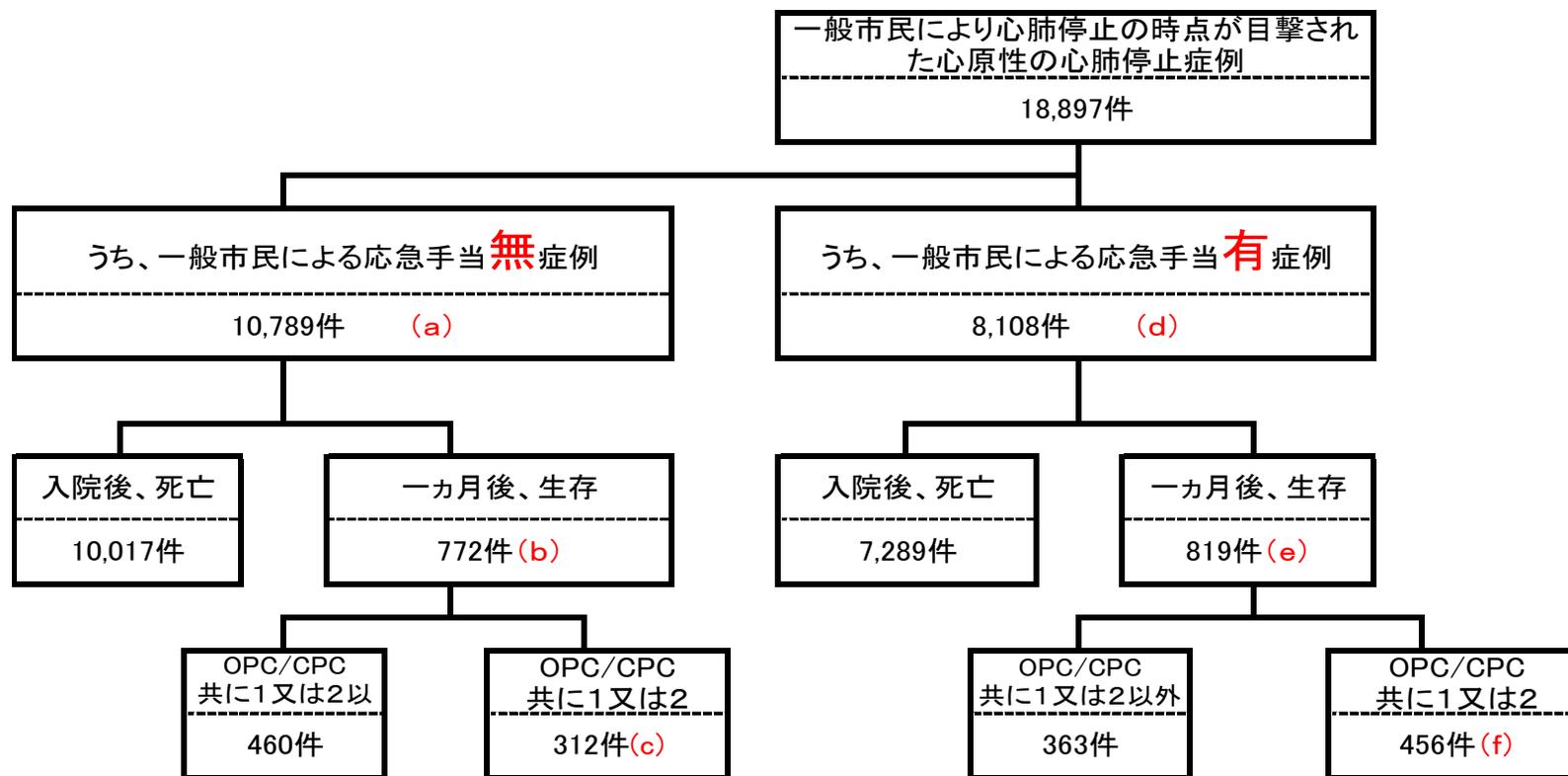
$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 6.2 \%$$

$$\text{生存率} : e / d \times 100 = 8.6 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 2.4 \%$$

$$\text{社会復帰率} : f / d \times 100 = 4.6 \%$$

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
一般市民による応急手当が行われた場合の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



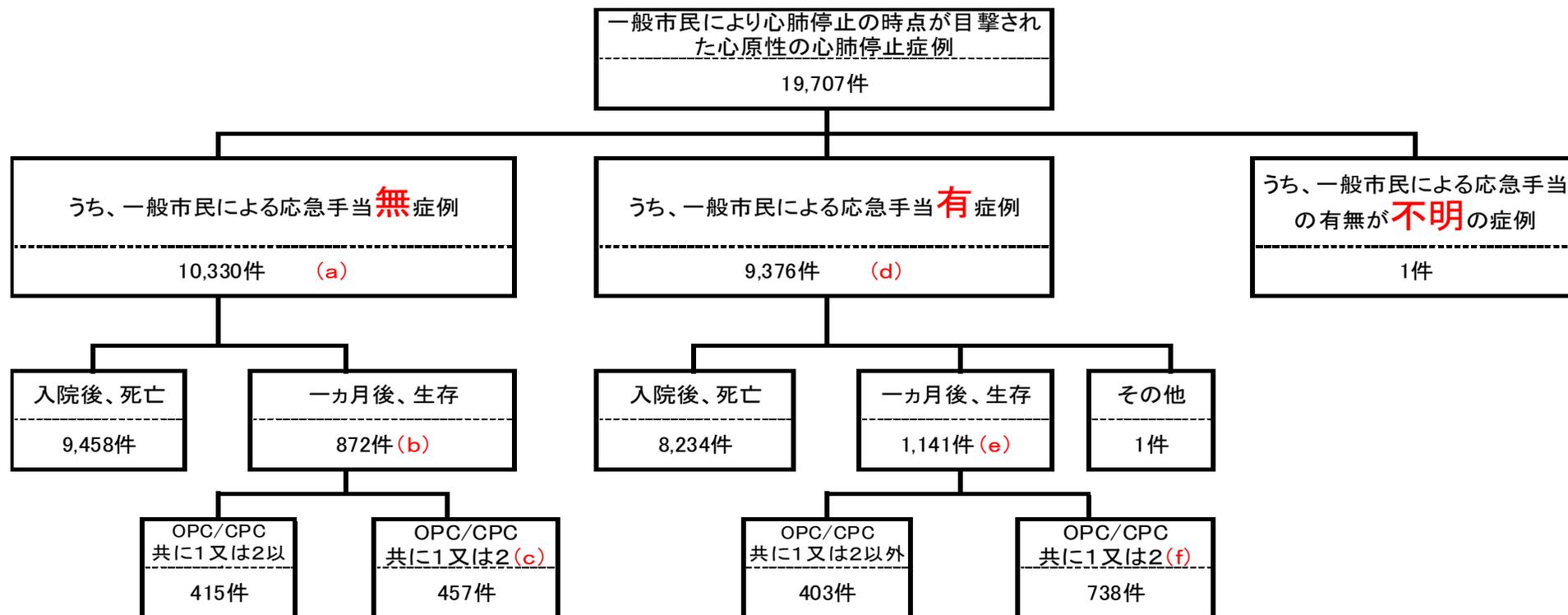
$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 7.2 \%$$

$$\text{生存率} : e / d \times 100 = 10.1 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 2.9 \%$$

$$\text{社会復帰率} : f / d \times 100 = 5.6 \%$$

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
一般市民による応急手当が行われた場合の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



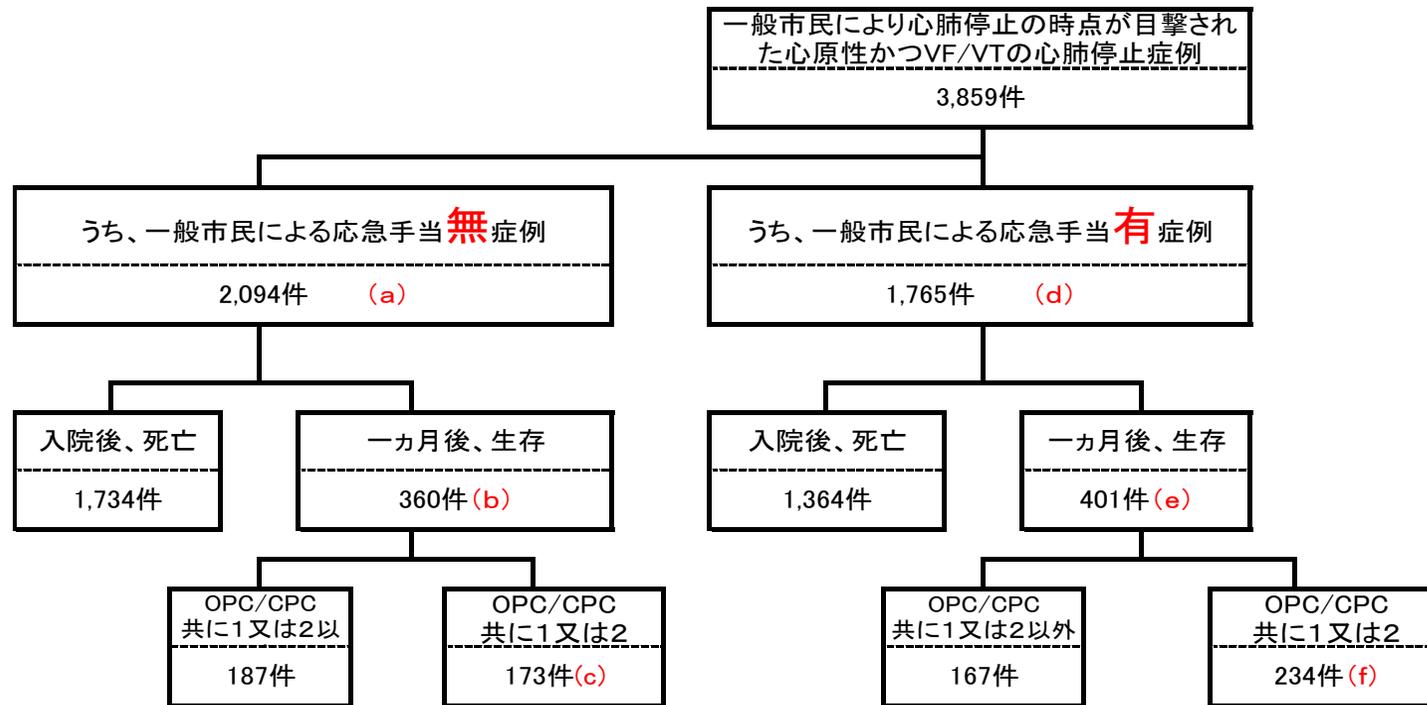
生存率 : $b / a \times 100 = 8.4 \%$

社会復帰率 : $c / a \times 100 = 4.4 \%$

生存率 : $e / d \times 100 = 12.2 \%$

社会復帰率 : $f / d \times 100 = 7.9 \%$

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
一般市民による応急手当が行われた場合の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



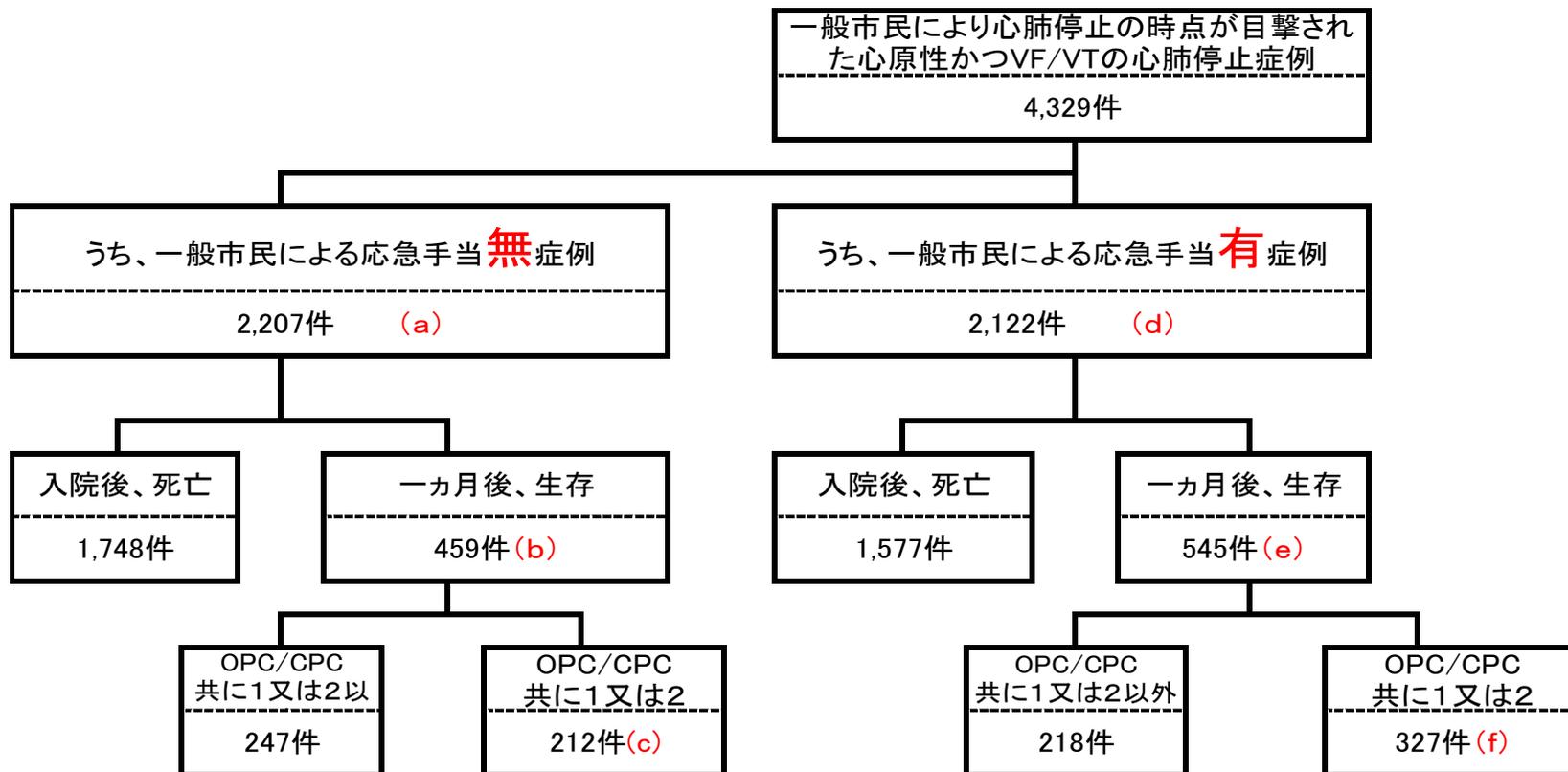
$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 17.2 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 8.3 \%$$

$$\text{生存率} : e / d \times 100 = 22.7 \%$$

$$\text{社会復帰率} : f / d \times 100 = 13.3 \%$$

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
一般市民による応急手当が行われた場合の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



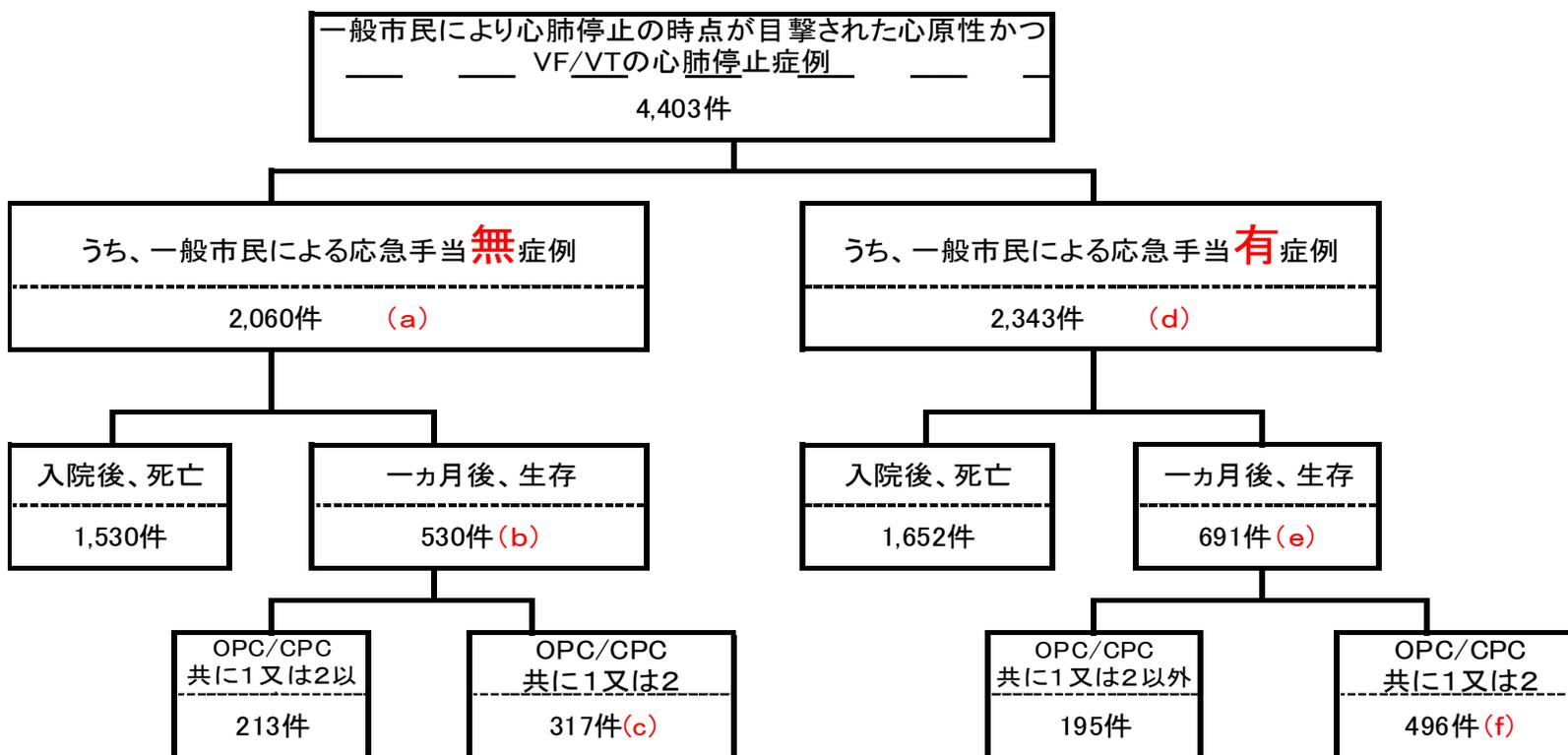
$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 20.8 \%$$

$$\text{生存率} : e / d \times 100 = 25.7 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 9.6 \%$$

$$\text{社会復帰率} : f / d \times 100 = 15.4 \%$$

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
一般市民による応急手当が行われた場合の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



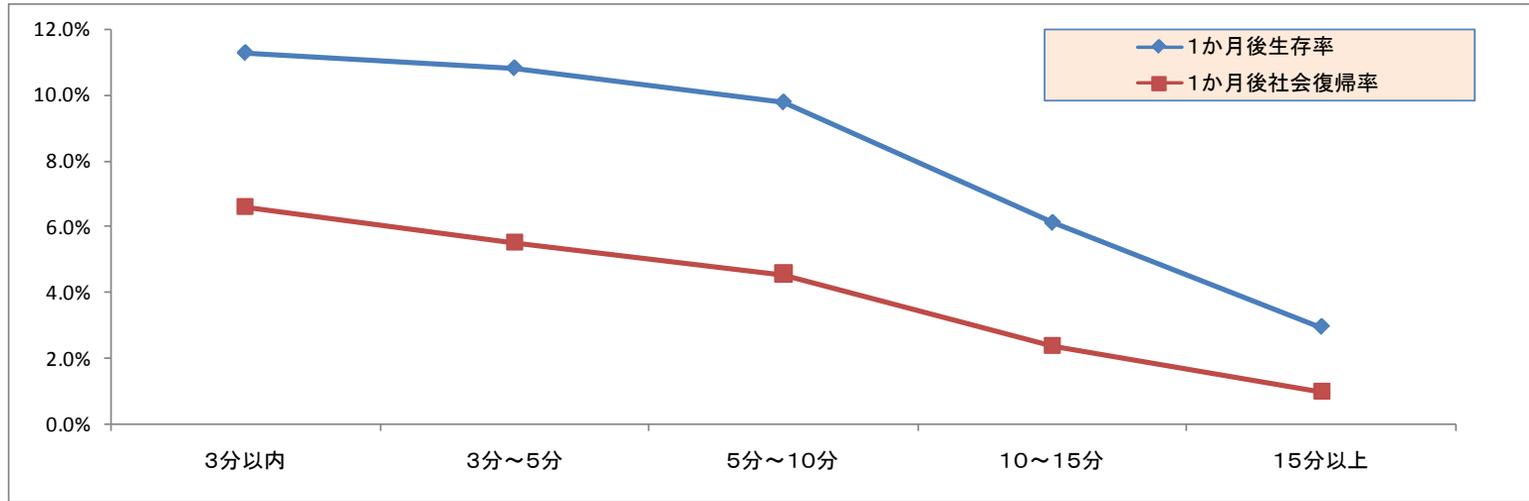
$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 25.7 \%$$

$$\text{生存率} : e / d \times 100 = 29.5 \%$$

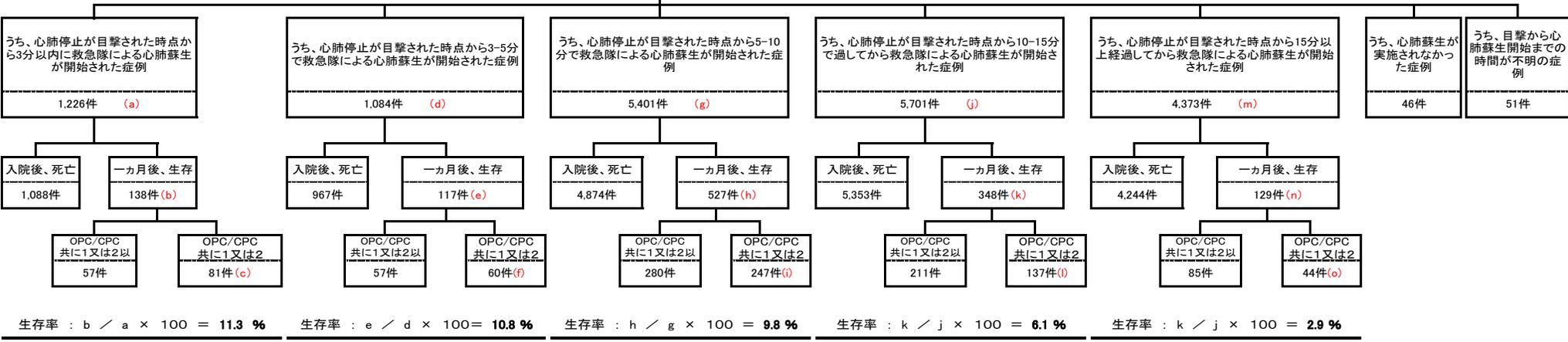
$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 15.4 \%$$

$$\text{社会復帰率} : f / d \times 100 = 21.2 \%$$

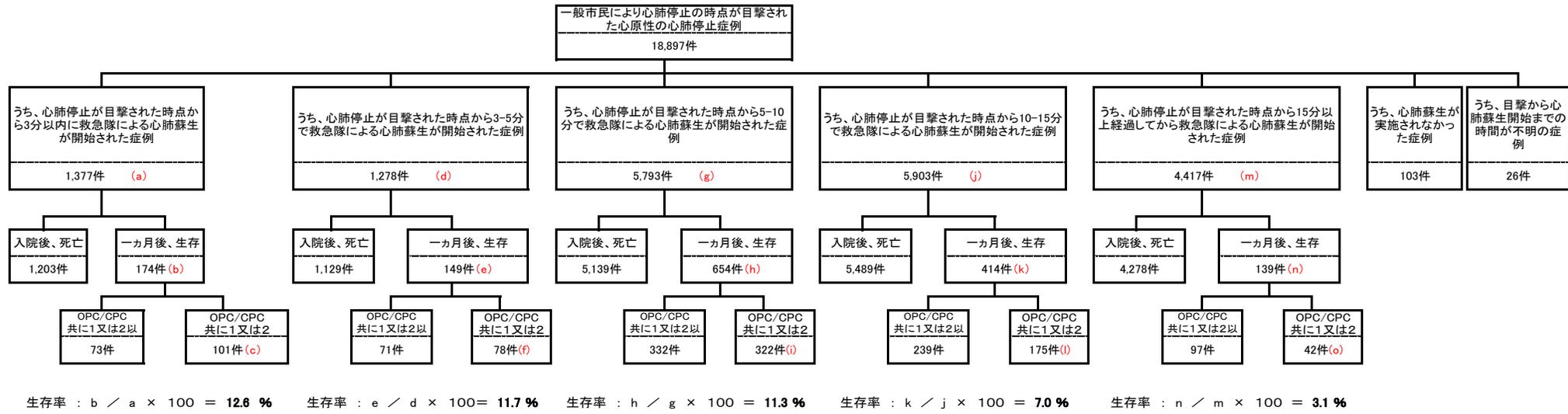
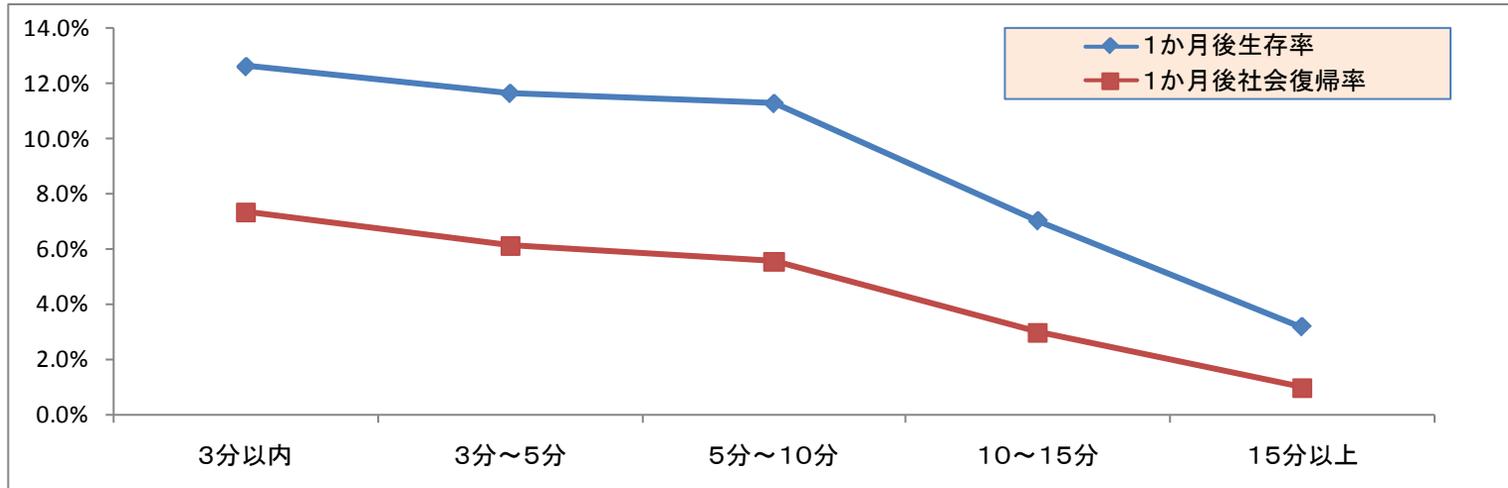
心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち救急隊員による心肺蘇生の開始時点における1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



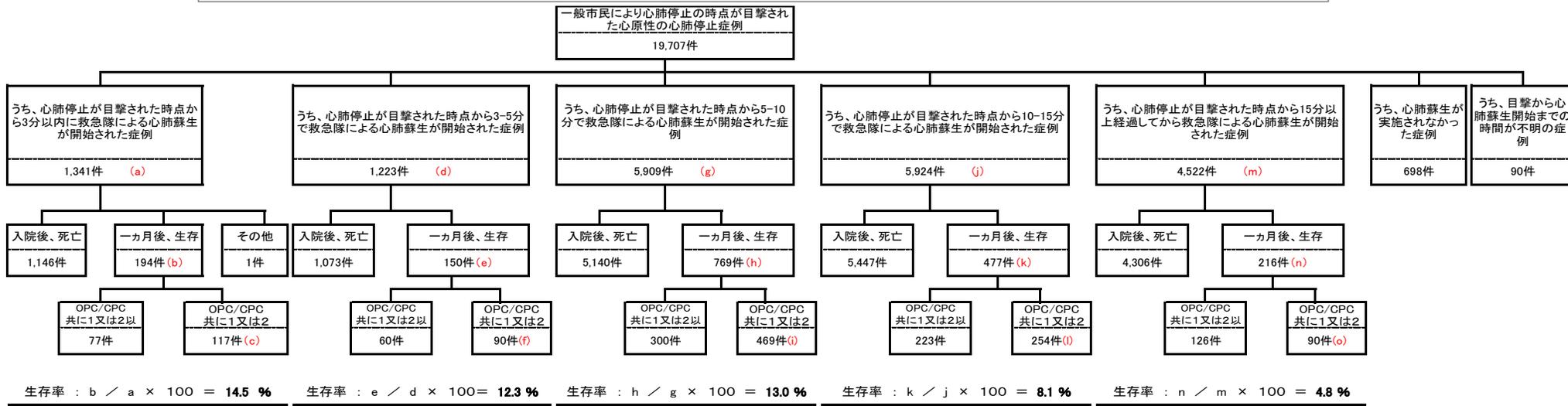
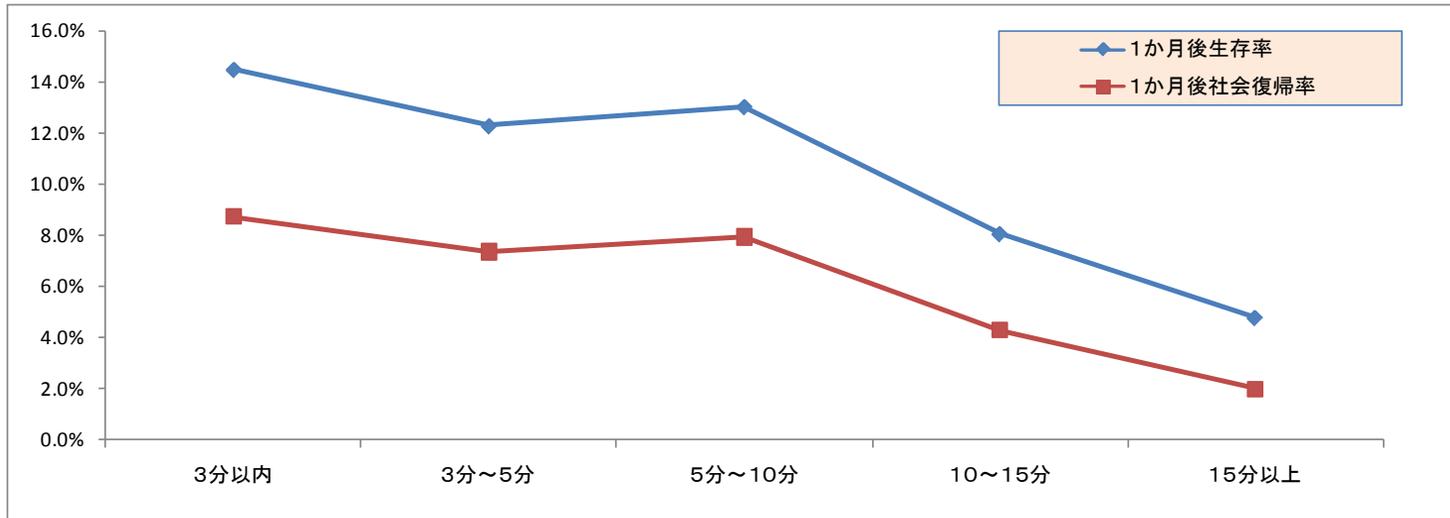
一般市民により心肺停止の時点が目撃された心原性の心肺停止症例
17,882件



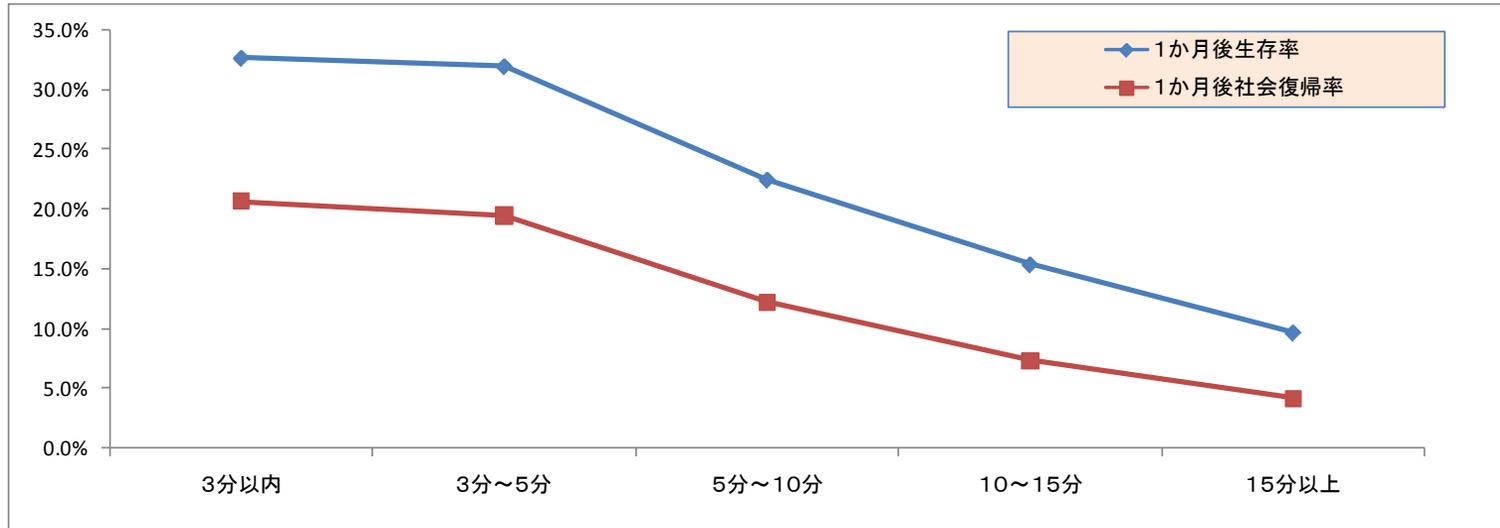
心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち救急隊員による心肺蘇生の開始時点における1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



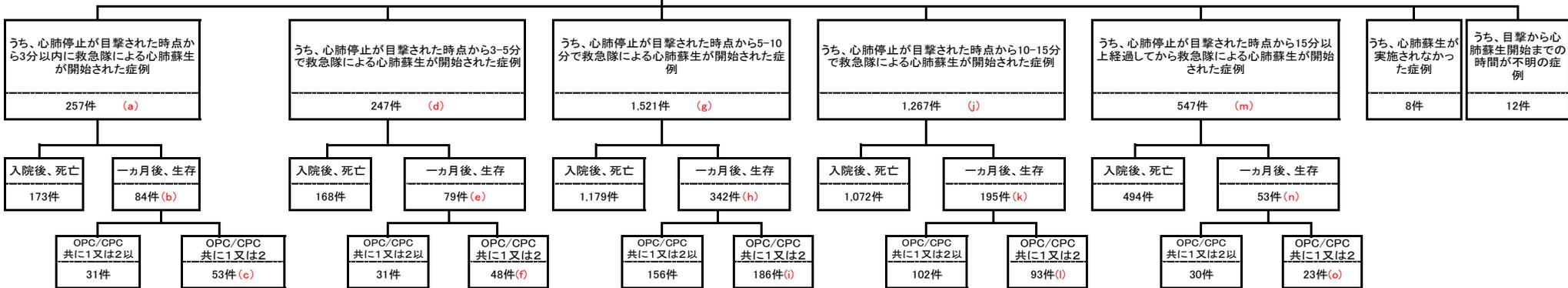
心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち 救急隊員による心肺蘇生の開始時点における1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち救急隊員による心肺蘇生の開始時点における1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



一般市民により心肺停止の時点が目撃された心原性かつVF/VTの心肺停止症例
3,859件



生存率 : $b / a \times 100 = 32.7 \%$

生存率 : $e / d \times 100 = 32.0 \%$

生存率 : $h / g \times 100 = 22.5 \%$

生存率 : $k / j \times 100 = 15.4 \%$

生存率 : $n / m \times 100 = 9.7 \%$

社会復帰率 : $c / a \times 100 = 20.6 \%$

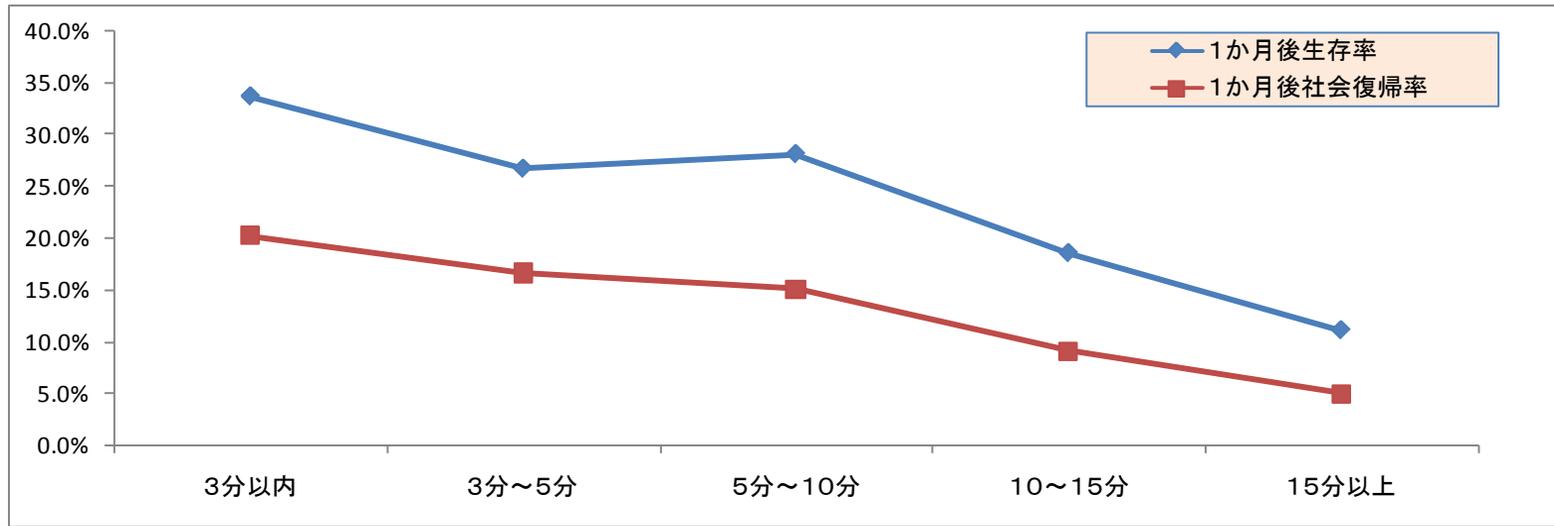
社会復帰率 : $f / d \times 100 = 19.4 \%$

社会復帰率 : $i / g \times 100 = 12.2 \%$

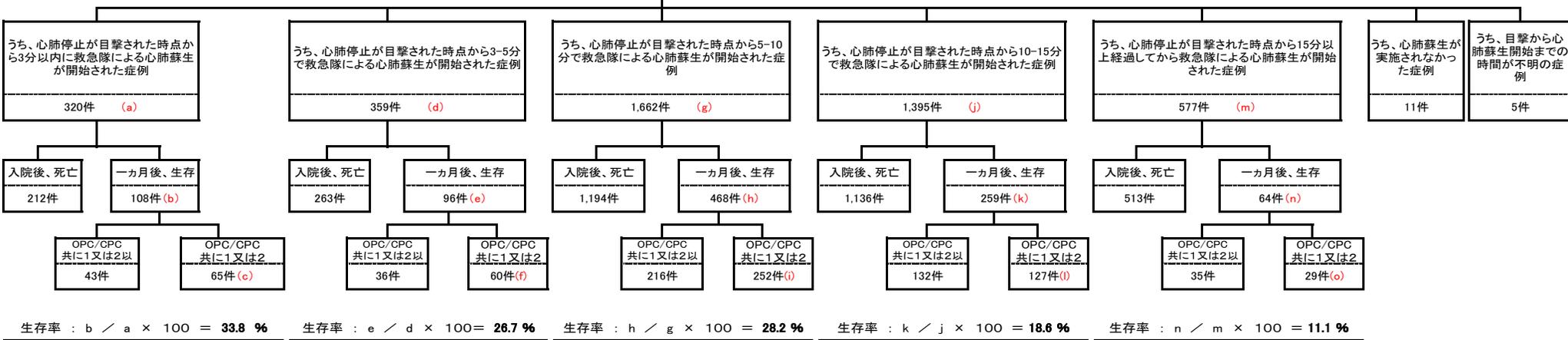
社会復帰率 : $l / j \times 100 = 7.3 \%$

社会復帰率 : $o / m \times 100 = 4.2 \%$

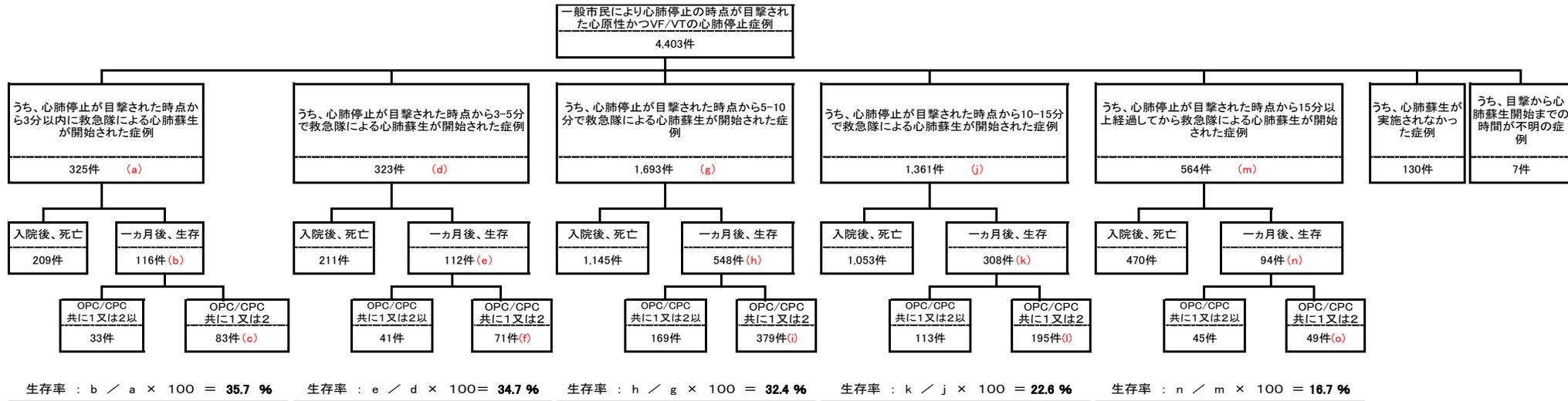
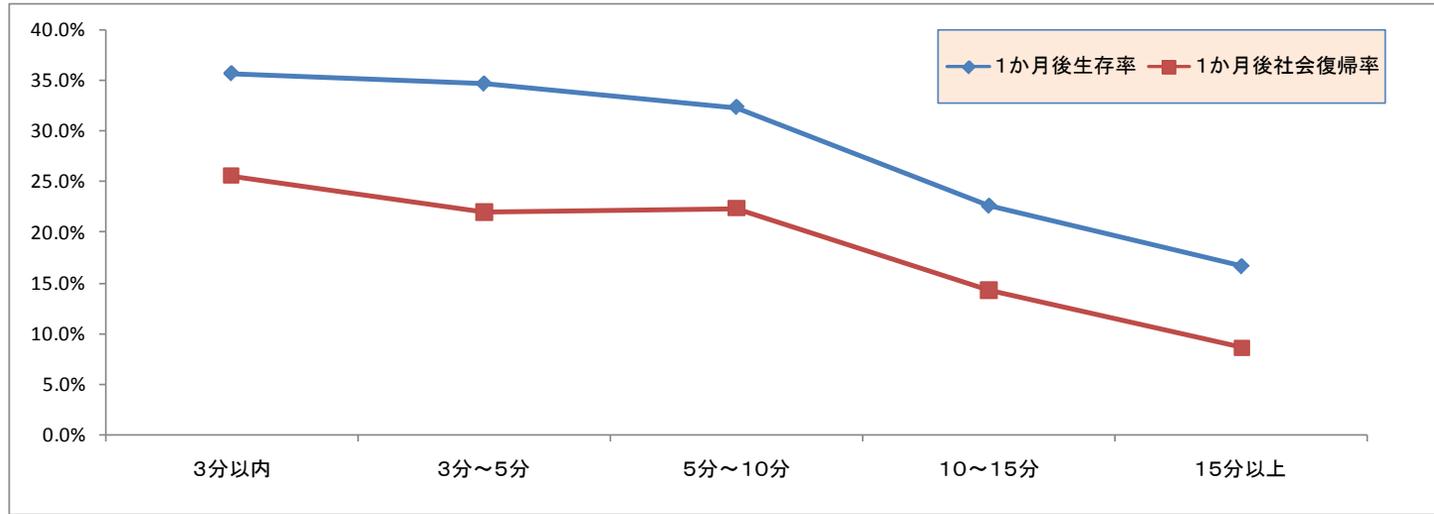
心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち救急隊員による心肺蘇生の開始時点における1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



一般市民により心肺停止の時点が目撃された心原性かつVF/VTの心肺停止症例
4,329件

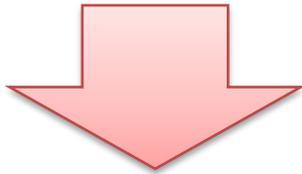
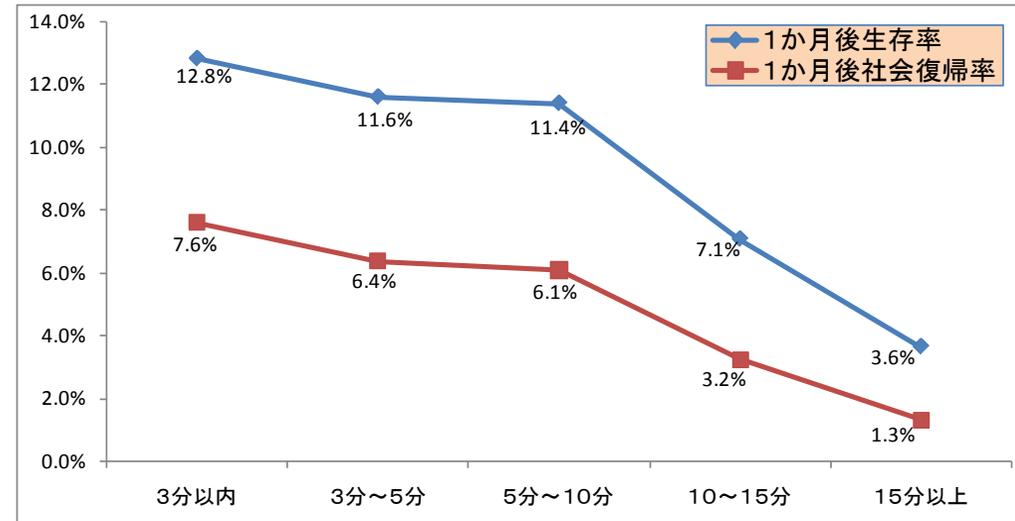


心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
救急隊員による心肺蘇生の開始時点における1か月後生存率及び1か月後社会復帰率

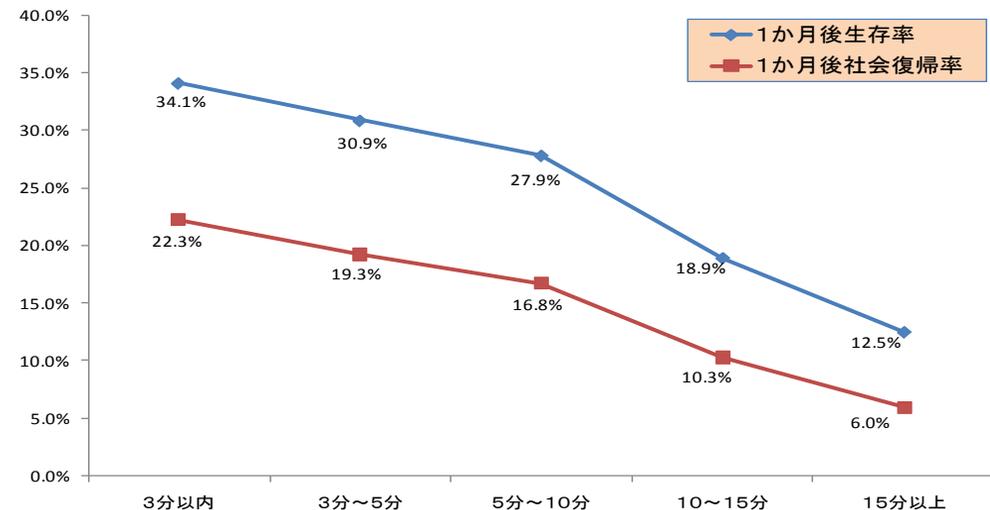


心肺機能停止が目撃された時点から救急隊による心肺蘇生が開始された時間
区分別(三か年集計)

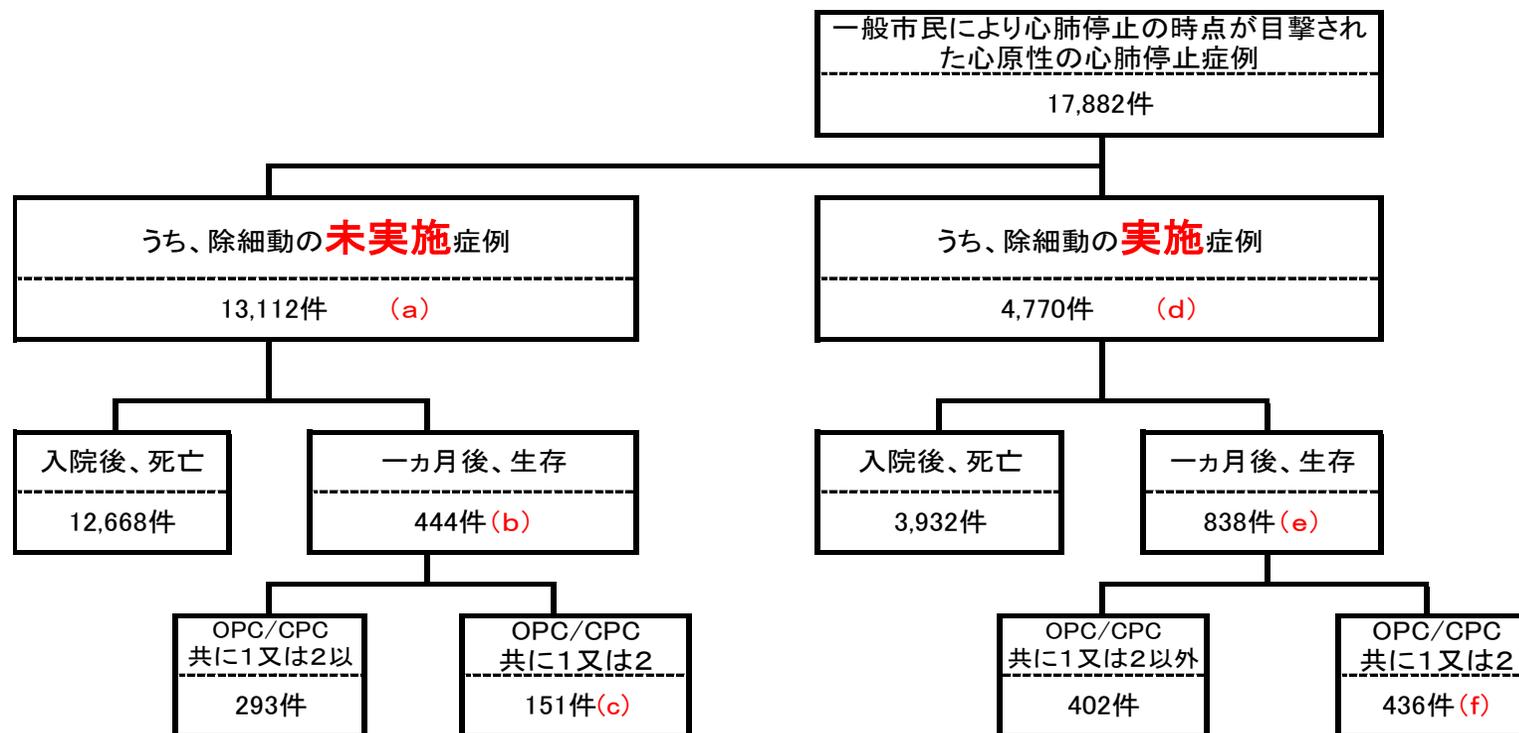
一般市民により心肺機能停止の時点
が目撃された心原性の心肺機能停止
症例のうち、救急隊員による心肺蘇生
の開始時点における1か月後生存率及
び1か月後社会復帰率
(2005年～2007年の3か年分)



上記のうち、**初期心電図波形がVF及
びVTであった症例**の救急隊員による
心肺蘇生の開始時点における1か月
後生存率及び1か月後社会復帰率
(2005年～2007年の3か年分)



心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
救急隊活動時における除細動実施症例の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



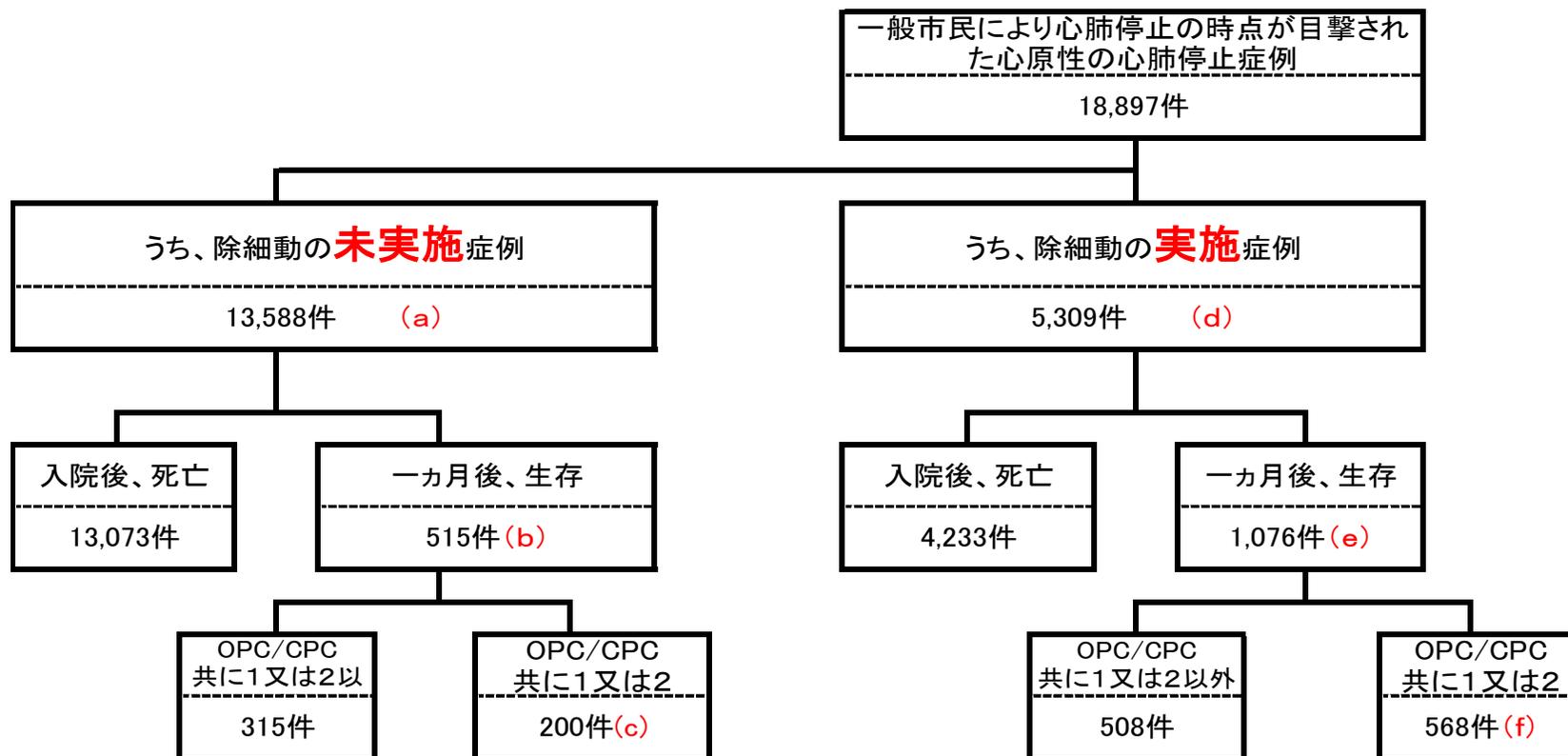
$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 3.4 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 1.2 \%$$

$$\text{生存率} : e / d \times 100 = 17.6 \%$$

$$\text{社会復帰率} : f / d \times 100 = 9.1 \%$$

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
救急隊活動時における除細動実施症例の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



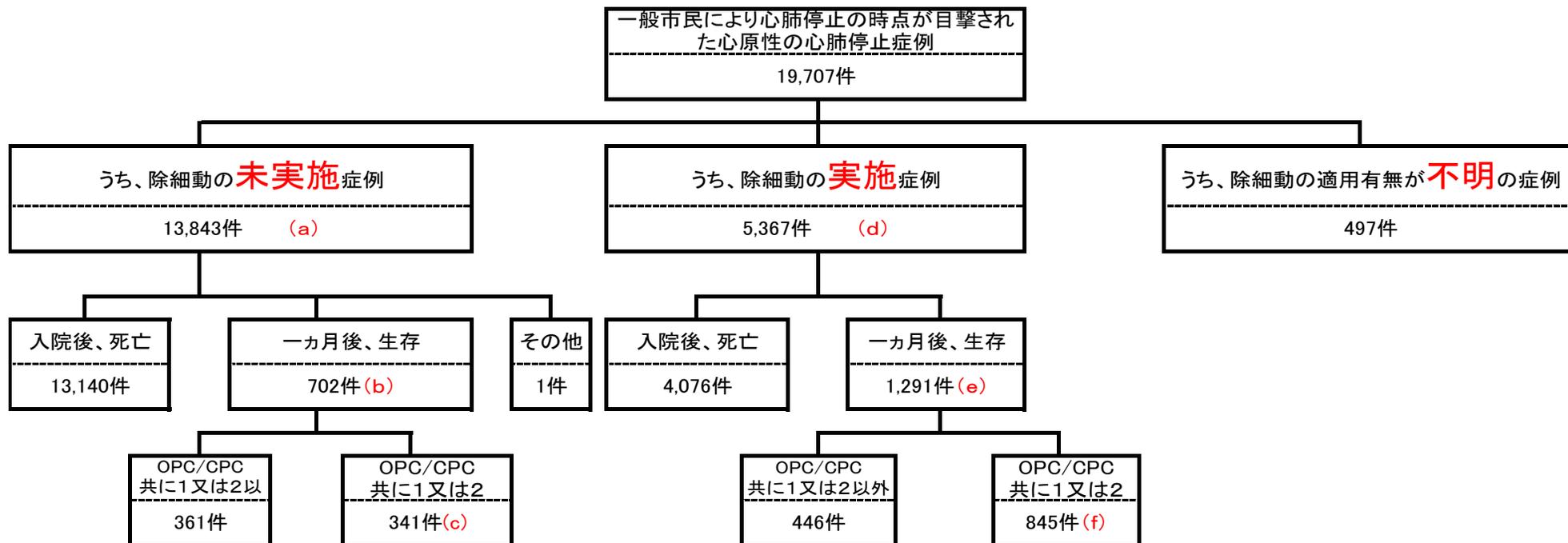
$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 3.8 \%$$

$$\text{生存率} : e / d \times 100 = 20.3 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 1.5 \%$$

$$\text{社会復帰率} : f / d \times 100 = 10.7 \%$$

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
救急隊活動時における除細動実施症例の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



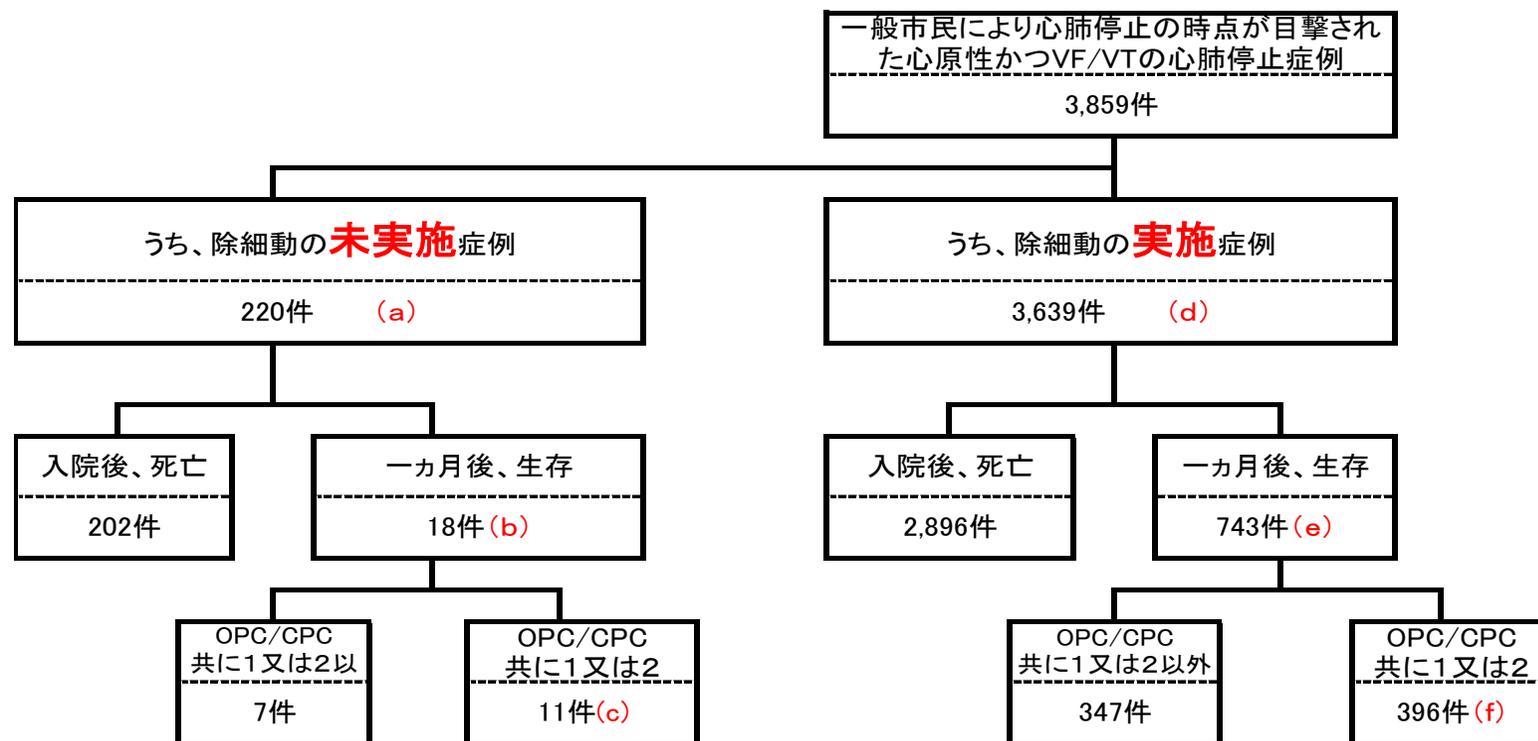
$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 5.1 \%$$

$$\text{生存率} : e / d \times 100 = 24.1 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 2.5 \%$$

$$\text{社会復帰率} : f / d \times 100 = 15.7 \%$$

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
救急隊活動時における除細動実施症例の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



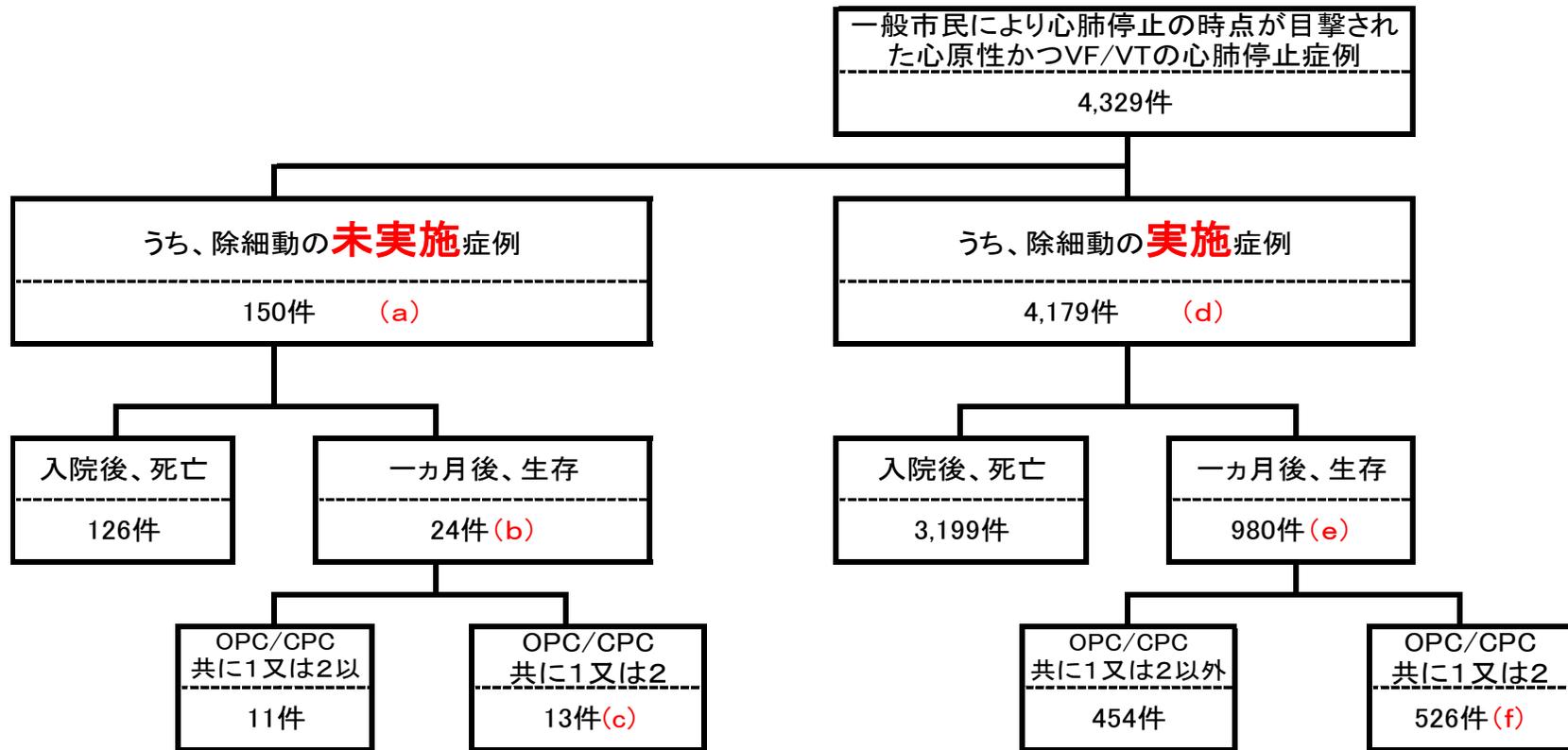
$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 8.2 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 5.0 \%$$

$$\text{生存率} : e / d \times 100 = 20.4 \%$$

$$\text{社会復帰率} : f / d \times 100 = 10.9 \%$$

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
救急隊活動時における除細動実施症例の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 16.0 \%$$

$$\text{生存率} : e / d \times 100 = 23.5 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 8.7 \%$$

$$\text{社会復帰率} : f / d \times 100 = 12.6 \%$$

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
救急隊活動時における除細動実施症例の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率

一般市民により心肺停止の時点が目撃され
た心原性かつVF/VTの心肺停止症例
4,403件

うち、除細動の**未実施**症例

139件 (a)

入院後、死亡

107件

一か月後、生存

32件 (b)

OPC/CPC
共に1又は2以

9件

OPC/CPC
共に1又は2

23件 (c)

生存率 : $b / a \times 100 = 23.0 \%$

社会復帰率 : $c / a \times 100 = 16.5 \%$

うち、除細動の**実施**症例

4,255件 (d)

入院後、死亡

3,068件

一か月後、生存

1,187件 (e)

OPC/CPC
共に1又は2以外

397件

OPC/CPC
共に1又は2

790件 (f)

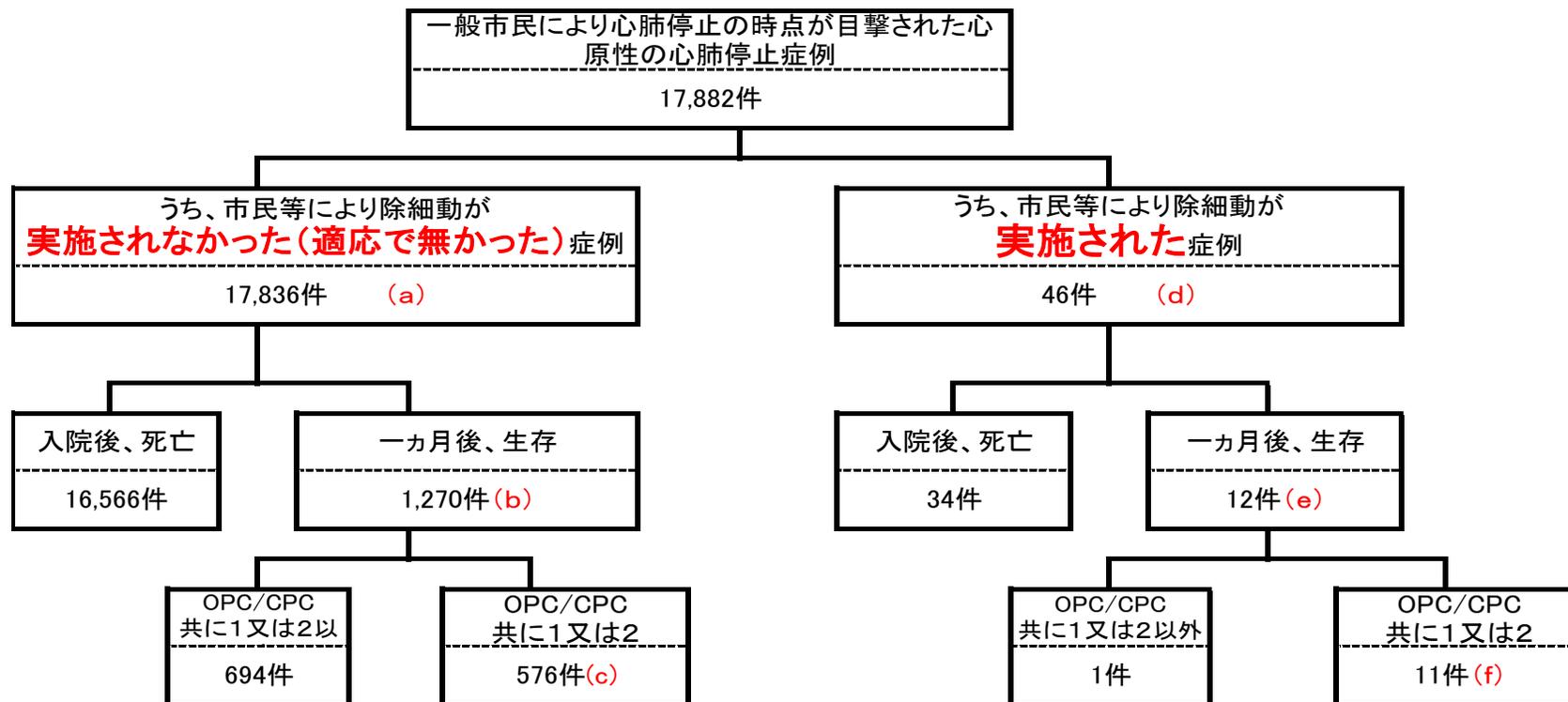
生存率 : $e / d \times 100 = 27.9 \%$

社会復帰率 : $f / d \times 100 = 18.6 \%$

うち、除細動の適用有無が**不明**の症例

9件

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
一般市民による除細動が行われた場合の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



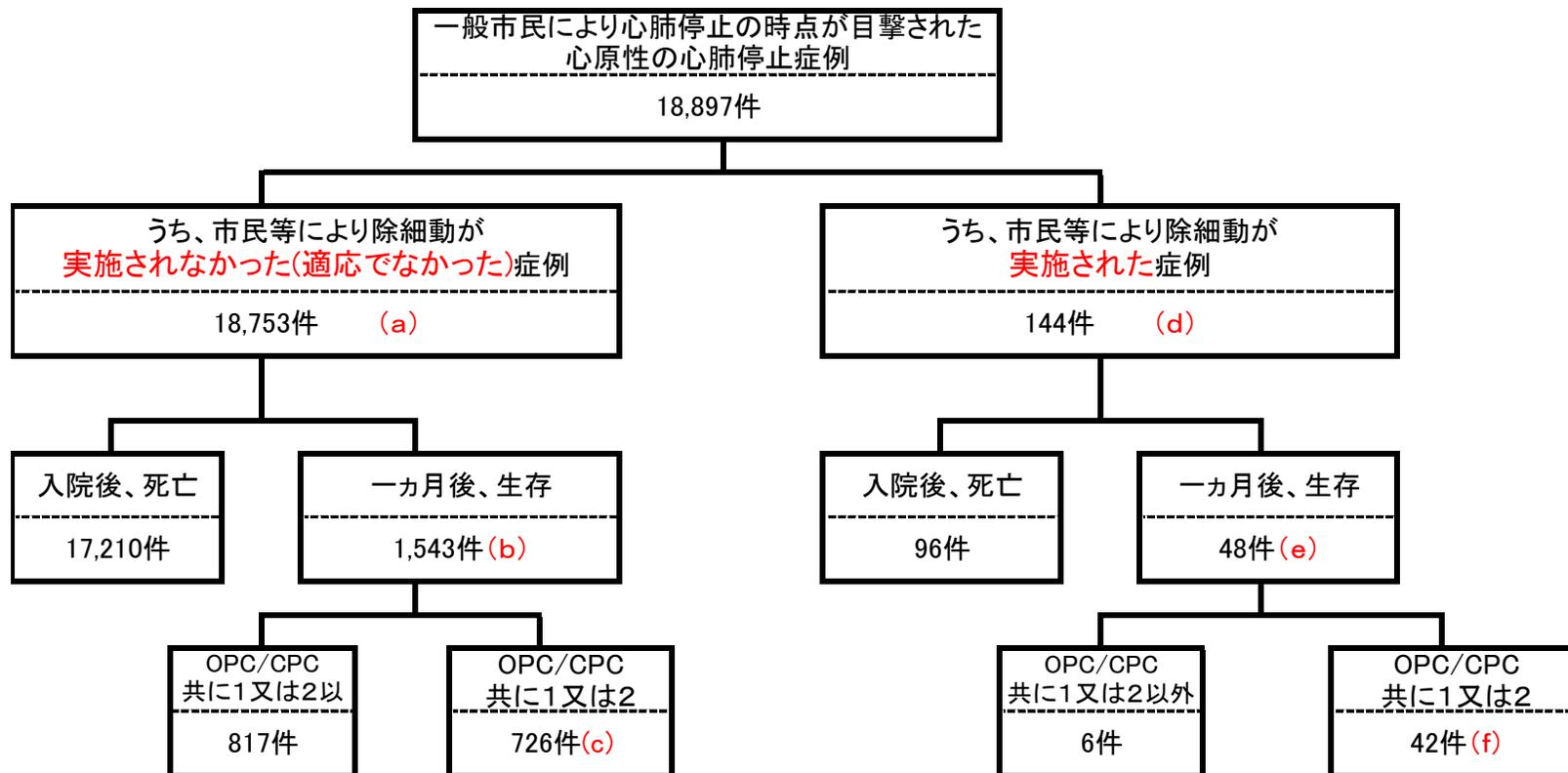
$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 7.1 \%$$

$$\text{生存率} : e / d \times 100 = 26.1 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 3.2 \%$$

$$\text{社会復帰率} : f / d \times 100 = 23.9 \%$$

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
一般市民による除細動が行われた場合の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



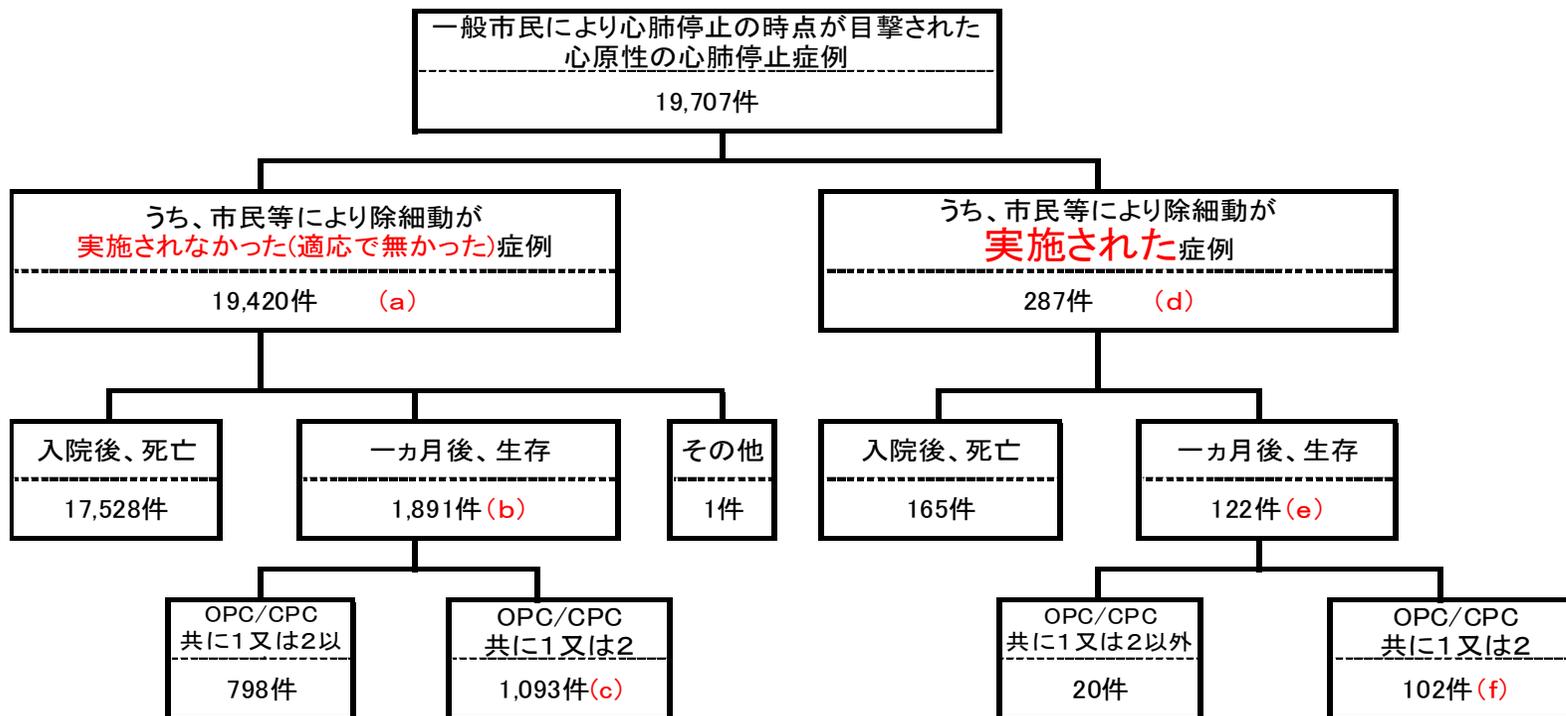
$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 8.2 \%$$

$$\text{生存率} : e / d \times 100 = 33.3 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 3.9 \%$$

$$\text{社会復帰率} : f / d \times 100 = 29.2 \%$$

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
一般市民による除細動が行われた場合の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



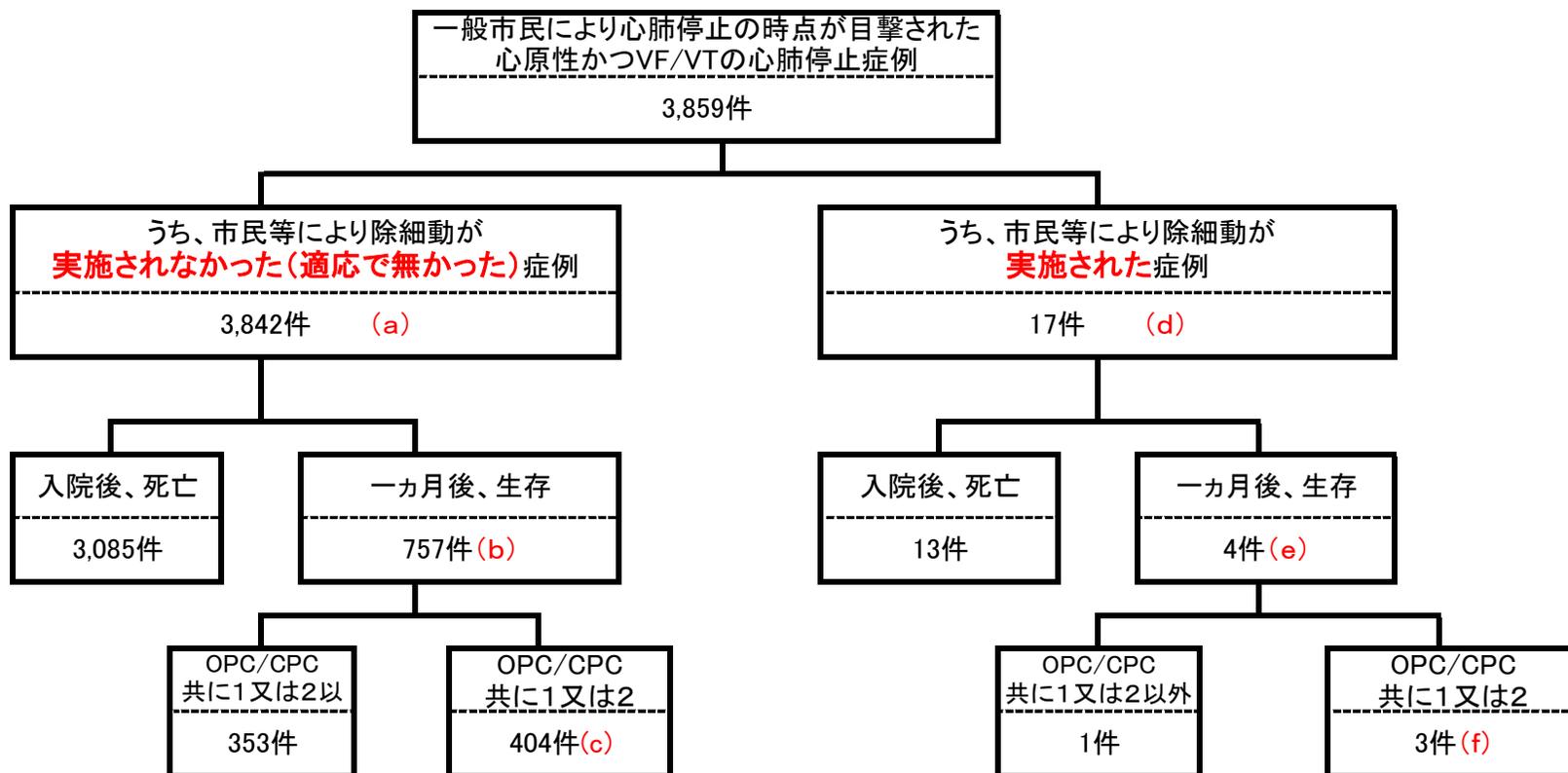
$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 9.7 \%$$

$$\text{生存率} : e / d \times 100 = 42.5 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 5.6 \%$$

$$\text{社会復帰率} : f / d \times 100 = 35.5 \%$$

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
一般市民による除細動が行われた場合の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



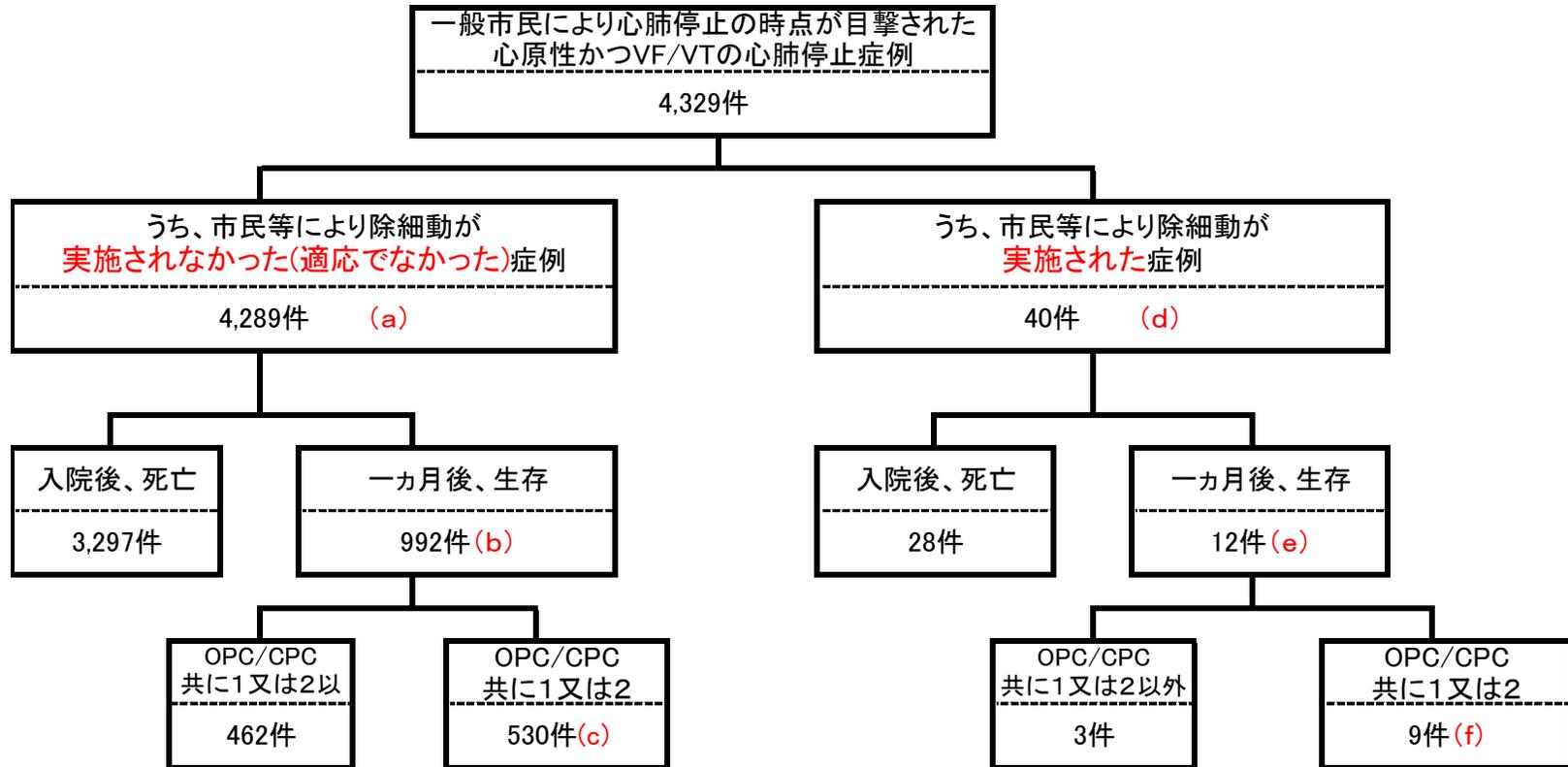
$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 19.7 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 10.5 \%$$

$$\text{生存率} : e / d \times 100 = 23.5 \%$$

$$\text{社会復帰率} : f / d \times 100 = 17.6 \%$$

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
一般市民による除細動が行われた場合の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



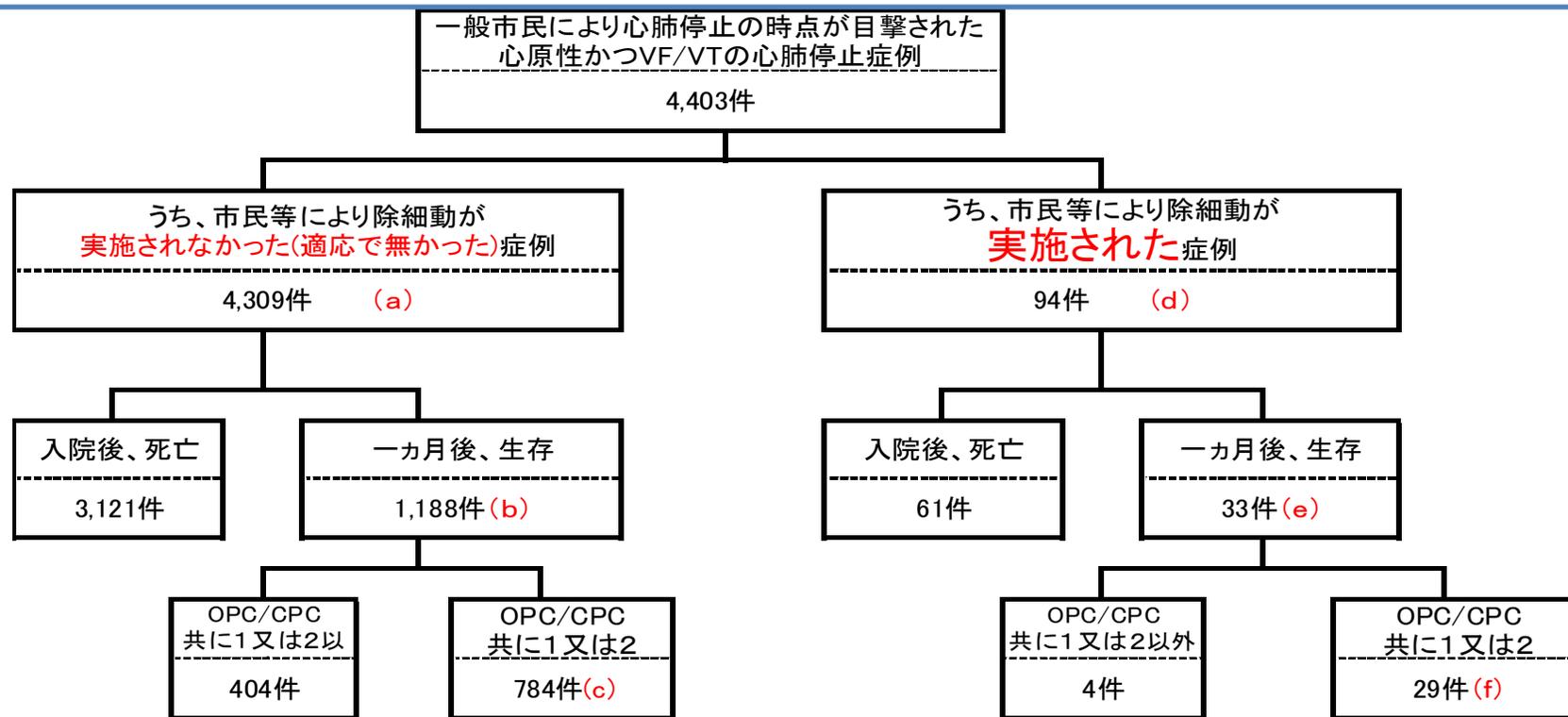
$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 23.1 \%$$

$$\text{生存率} : e / d \times 100 = 30.0 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 12.4 \%$$

$$\text{社会復帰率} : f / d \times 100 = 22.5 \%$$

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例のうち
一般市民による除細動が行われた場合の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率



$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 27.6 \%$$

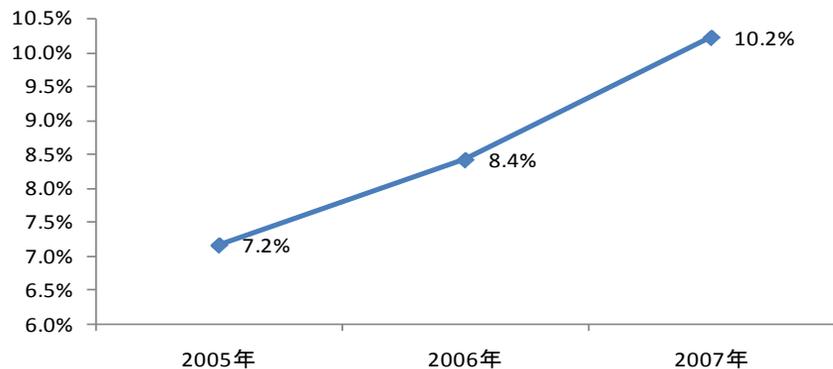
$$\text{生存率} : e / d \times 100 = 35.1 \%$$

$$\text{社会復帰率} : c / a \times 100 = 18.2 \%$$

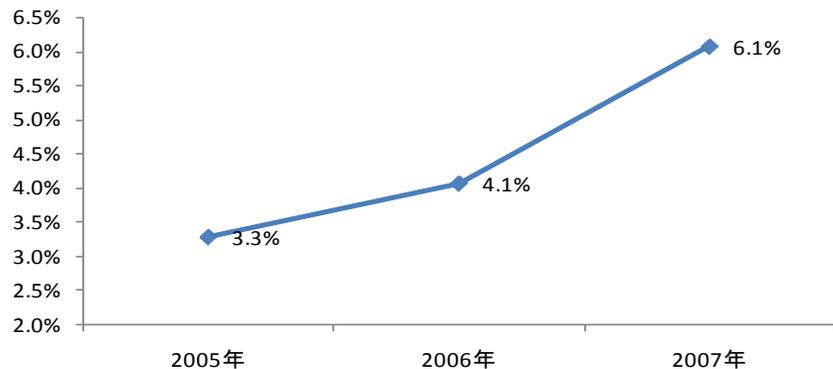
$$\text{社会復帰率} : f / d \times 100 = 30.9 \%$$

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された症例の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率(3か年集計、都道府県別)

1か月後生存率



1か月後社会復帰率

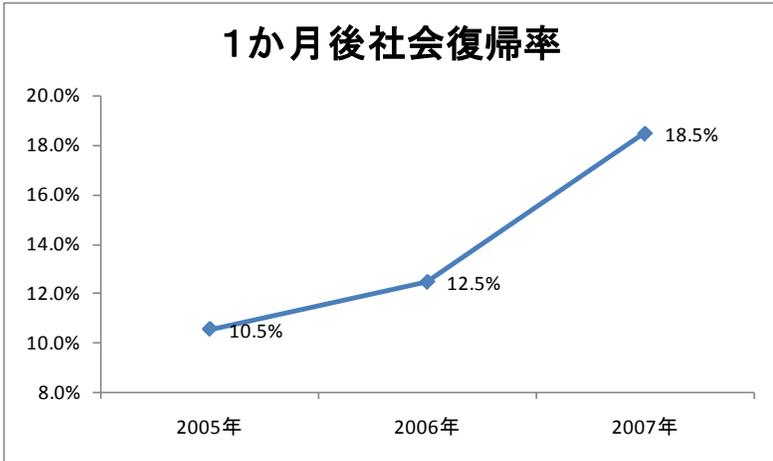
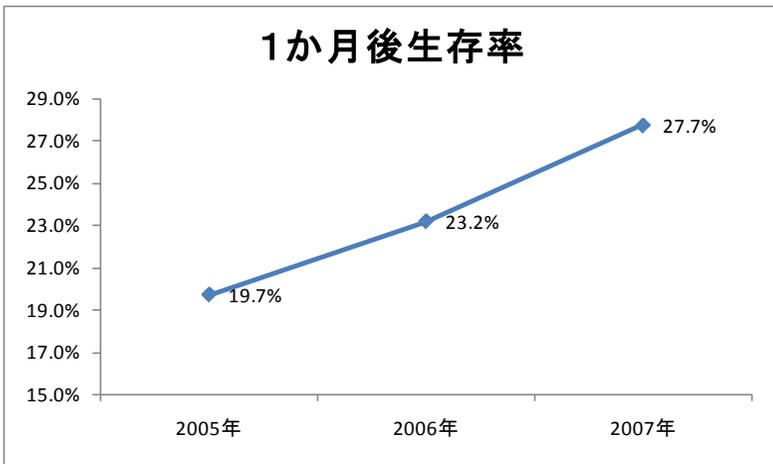


都道府県	全件数	一般市民により心肺機能停止の時点が目撃された心原性的心肺機能停止症例				
		1か月後生存者数		1か月後社会復帰者数		
		1か月後生存率	1か月後社会復帰率	1か月後生存者数	1か月後社会復帰者数	
北海道	13,703	2,242	261	11.6%	135	6.0%
青森県	4,235	801	52	6.5%	26	3.2%
岩手県	4,370	880	52	5.9%	24	2.7%
宮城県	6,372	1,369	91	6.6%	47	3.4%
秋田県	3,968	682	61	8.9%	46	6.7%
山形県	3,902	692	46	6.6%	26	3.8%
福島県	5,979	1,373	60	4.4%	28	2.0%
茨城県	7,616	1,316	87	6.6%	38	2.9%
栃木県	5,615	1,112	45	4.0%	25	2.2%
群馬県	5,421	946	60	6.3%	35	3.7%
埼玉県	15,228	2,985	243	8.1%	129	4.3%
千葉県	13,540	2,393	177	7.4%	100	4.2%
東京都	34,018	5,060	394	7.8%	231	4.6%
神奈川県	21,431	3,507	316	9.0%	143	4.1%
新潟県	7,460	1,047	71	6.8%	40	3.8%
富山県	2,837	396	81	20.5%	26	6.6%
石川県	2,720	465	49	10.5%	32	6.9%
福井県	1,943	247	20	8.1%	12	4.9%
山梨県	2,598	439	27	6.2%	17	3.9%
長野県	6,658	999	46	4.6%	21	2.1%
岐阜県	5,919	1,053	80	7.6%	42	4.0%
静岡県	10,456	1,771	111	6.3%	60	3.4%
愛知県	17,949	4,096	458	11.2%	219	5.3%
三重県	5,621	895	61	6.8%	32	3.6%
滋賀県	3,266	542	45	8.3%	23	4.2%
京都府	6,404	1,260	137	10.9%	65	5.2%
大阪府	18,940	3,909	481	12.3%	263	6.7%
兵庫県	12,623	2,438	223	9.1%	111	4.6%
奈良県	2,840	662	39	5.9%	20	3.0%
和歌山県	3,121	507	36	7.1%	20	3.9%
鳥取県	1,718	336	28	8.3%	14	4.2%
島根県	2,453	457	50	10.9%	31	6.8%
岡山県	4,628	812	55	6.8%	22	2.7%
広島県	6,211	976	99	10.1%	58	5.9%
山口県	3,560	616	47	7.6%	23	3.7%
徳島県	1,781	334	18	5.4%	9	2.7%
香川県	2,139	273	14	5.1%	6	2.2%
愛媛県	3,839	739	43	5.8%	17	2.3%
高知県	2,117	350	44	12.6%	15	4.3%
福岡県	11,125	1,724	206	11.9%	117	6.8%
佐賀県	1,840	285	25	8.8%	12	4.2%
長崎県	3,214	556	41	7.4%	25	4.5%
熊本県	4,391	748	74	9.9%	46	6.1%
大分県	2,619	426	36	8.5%	13	3.1%
宮崎県	2,720	466	47	10.1%	30	6.4%
鹿児島県	4,234	763	76	10.0%	47	6.2%
沖縄県	2,799	541	73	13.5%	29	5.4%
全国	318,141	56,486	4,886	8.6%	2,550	4.5%

別紙7 詳細

都道府県	2005年					2006年					2007年				
	一般市民により心肺機能停止の時点が目撃された心原性的心肺機能停止症例														
	1か月後生存者数		1か月後社会復帰者数			1か月後生存者数		1か月後社会復帰者数			1か月後生存者数		1か月後社会復帰者数		
		1か月後生存率		1か月後社会復帰率		1か月後生存率		1か月後社会復帰率		1か月後生存率		1か月後社会復帰率			
北海道	749	65	8.7%	27	3.6%	765	97	12.7%	48	6.3%	728	99	13.6%	60	8.2%
青森県	276	10	3.6%	3	1.1%	262	16	6.1%	8	3.1%	263	26	9.9%	15	5.7%
岩手県	275	13	4.7%	7	2.5%	293	16	5.5%	6	2.0%	312	23	7.4%	11	3.5%
宮城県	461	24	5.2%	13	2.8%	430	27	6.3%	17	4.0%	478	40	8.4%	17	3.6%
秋田県	220	17	7.7%	12	5.5%	223	23	10.3%	15	6.7%	239	21	8.8%	19	7.9%
山形県	234	7	3.0%	3	1.3%	235	21	8.9%	12	5.1%	223	18	8.1%	11	4.9%
福島県	427	15	3.5%	6	1.4%	457	16	3.5%	7	1.5%	489	29	5.9%	15	3.1%
茨城県	434	19	4.4%	8	1.8%	416	27	6.5%	10	2.4%	466	41	8.8%	20	4.3%
栃木県	389	14	3.6%	5	1.3%	389	16	4.1%	10	2.6%	334	15	4.5%	10	3.0%
群馬県	367	24	6.5%	10	2.7%	291	15	5.2%	11	3.8%	288	21	7.3%	14	4.9%
埼玉県	917	56	6.1%	24	2.6%	1,001	68	6.8%	37	3.7%	1,067	119	11.2%	68	6.4%
千葉県	716	46	6.4%	18	2.5%	809	52	6.4%	27	3.3%	868	79	9.1%	55	6.3%
東京都	1,521	138	9.1%	71	4.7%	1,733	108	6.2%	60	3.5%	1,806	148	8.2%	100	5.5%
神奈川県	1,187	85	7.2%	28	2.4%	1,093	98	9.0%	46	4.2%	1,227	133	10.8%	69	5.6%
新潟県	306	13	4.2%	8	2.6%	370	20	5.4%	10	2.7%	371	38	10.2%	22	5.9%
富山県	122	27	22.1%	5	4.1%	139	36	25.9%	12	8.6%	135	18	13.3%	9	6.7%
石川県	132	15	11.4%	10	7.6%	185	19	10.3%	8	4.3%	148	15	10.1%	14	9.5%
福井県	87	6	6.9%	3	3.4%	80	6	7.5%	3	3.8%	80	8	10.0%	6	7.5%
山梨県	145	6	4.1%	4	2.8%	142	8	5.6%	4	2.8%	152	13	8.6%	9	5.9%
長野県	323	16	5.0%	8	2.5%	335	13	3.9%	4	1.2%	341	17	5.0%	9	2.6%
岐阜県	351	31	8.8%	15	4.3%	362	23	6.4%	13	3.6%	340	26	7.6%	14	4.1%
静岡県	550	20	3.6%	11	2.0%	584	50	8.6%	24	4.1%	637	41	6.4%	25	3.9%
愛知県	1,305	102	7.8%	40	3.1%	1,439	179	12.4%	72	5.0%	1,352	177	13.1%	107	7.9%
三重県	290	13	4.5%	8	2.8%	278	15	5.4%	6	2.2%	327	33	10.1%	18	5.5%
滋賀県	182	14	7.7%	8	4.4%	181	15	8.3%	8	4.4%	179	16	8.9%	7	3.9%
京都府	422	47	11.1%	23	5.5%	402	43	10.7%	21	5.2%	436	47	10.8%	21	4.8%
大阪府	1,179	113	9.6%	57	4.8%	1,311	166	12.7%	80	6.1%	1,419	202	14.2%	126	8.9%
兵庫県	753	57	7.6%	27	3.6%	856	83	9.7%	37	4.3%	829	83	10.0%	47	5.7%
奈良県	165	8	4.8%	5	3.0%	243	14	5.8%	6	2.5%	254	17	6.7%	9	3.5%
和歌山県	157	13	8.3%	5	3.2%	167	14	8.4%	8	4.8%	183	9	4.9%	7	3.8%
鳥取県	102	6	5.9%	3	2.9%	116	10	8.6%	4	3.4%	118	12	10.2%	7	5.9%
島根県	154	17	11.0%	11	7.1%	141	12	8.5%	5	3.5%	162	21	13.0%	15	9.3%
岡山県	295	18	6.1%	8	2.7%	257	16	6.2%	6	2.3%	260	21	8.1%	8	3.1%
広島県	303	25	8.3%	15	5.0%	336	31	9.2%	16	4.8%	337	43	12.8%	27	8.0%
山口県	201	5	2.5%	2	1.0%	194	22	11.3%	10	5.2%	221	20	9.0%	11	5.0%
徳島県	91	6	6.6%	3	3.3%	123	5	4.1%	1	0.8%	120	7	5.8%	5	4.2%
香川県	82	5	6.1%	1	1.2%	87	4	4.6%	1	1.1%	104	5	4.8%	4	3.8%
愛媛県	224	8	3.6%	1	0.4%	266	15	5.6%	6	2.3%	249	20	8.0%	10	4.0%
高知県	114	15	13.2%	3	2.6%	110	11	10.0%	5	4.5%	126	18	14.3%	7	5.6%
福岡県	531	63	11.9%	31	5.8%	575	53	9.2%	30	5.2%	618	90	14.6%	56	9.1%
佐賀県	75	10	13.3%	6	8.0%	93	6	6.5%	2	2.2%	117	9	7.7%	4	3.4%
長崎県	172	8	4.7%	3	1.7%	172	15	8.7%	9	5.2%	212	18	8.5%	13	6.1%
熊本県	222	14	6.3%	9	4.1%	236	21	8.9%	14	5.9%	290	39	13.4%	23	7.9%
大分県	145	7	4.8%	3	2.1%	150	10	6.7%	4	2.7%	131	19	14.5%	6	4.6%
宮崎県	147	12	8.2%	4	2.7%	142	12	8.5%	9	6.3%	177	23	13.0%	17	9.6%
鹿児島県	242	13	5.4%	8	3.3%	247	21	8.5%	10	4.0%	274	42	15.3%	29	10.6%
沖縄県	140	16	11.4%	4	2.9%	181	23	12.7%	6	3.3%	220	34	15.5%	19	8.6%
全国	17,882	1,282	7.2%	587	3.3%	18,897	1,591	8.4%	768	4.1%	19,707	2,013	10.2%	1,195	6.1%

心原性でかつ心肺機能停止の時点が一般市民により目撃された**初期心電図波形がVF又はVT(脈なし)症例**の1か月後生存率及び1か月後社会復帰率(3か年集計、都道府県別)



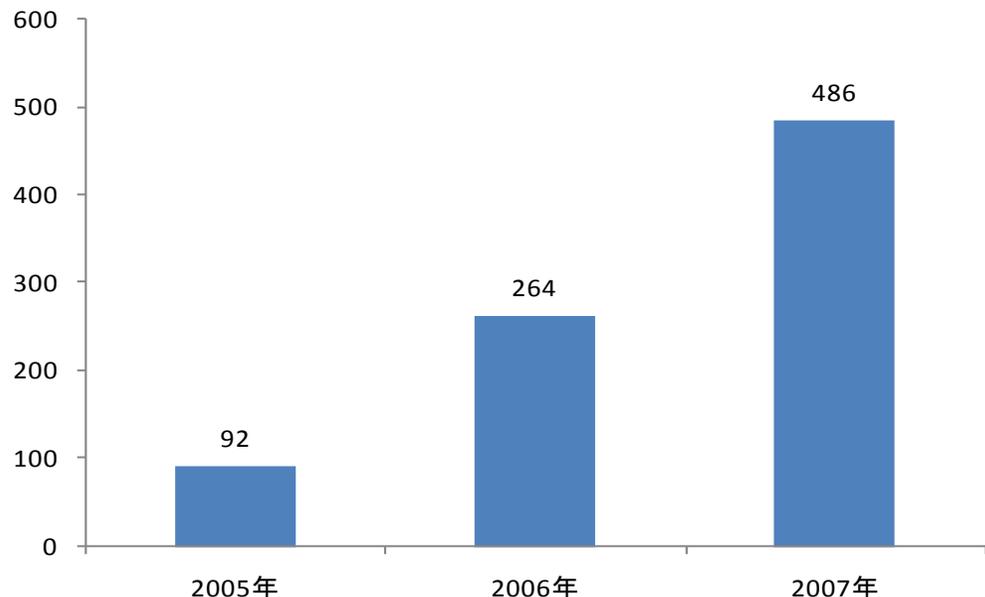
都道府県	全件数	一般市民により心肺機能停止の時点が目撃された心原性かつ初期心電図波形がVF/VTである心肺機能停止症例				
		1か月後生存者数		1か月後社会復帰者数		
		1か月後生存者数	1か月後生存率	1か月後社会復帰者数	1か月後社会復帰率	
北海道	13,703	636	176	27.7%	101	15.9%
青森県	4,235	175	38	21.7%	19	10.9%
岩手県	4,370	175	35	20.0%	18	10.3%
宮城県	6,372	267	53	19.9%	33	12.4%
秋田県	3,968	159	40	25.2%	32	20.1%
山形県	3,902	144	29	20.1%	16	11.1%
福島県	5,979	258	41	15.9%	21	8.1%
茨城県	7,616	258	49	19.0%	29	11.2%
栃木県	5,615	245	31	12.7%	16	6.5%
群馬県	5,421	181	38	21.0%	28	15.5%
埼玉県	15,228	684	155	22.7%	98	14.3%
千葉県	13,540	481	106	22.0%	66	13.7%
東京都	34,018	1,099	210	19.1%	123	11.2%
神奈川県	21,431	840	187	22.3%	98	11.7%
新潟県	7,460	251	47	18.7%	28	11.2%
富山県	2,837	129	45	34.9%	19	14.7%
石川県	2,720	135	35	25.9%	22	16.3%
福井県	1,943	62	13	21.0%	9	14.5%
山梨県	2,598	91	13	14.3%	10	11.0%
長野県	6,658	204	27	13.2%	14	6.9%
岐阜県	5,919	193	50	25.9%	31	16.1%
静岡県	10,456	427	74	17.3%	37	8.7%
愛知県	17,949	816	255	31.3%	150	18.4%
三重県	5,621	181	33	18.2%	20	11.0%
滋賀県	3,266	121	28	23.1%	18	14.9%
京都府	6,404	313	102	32.6%	50	16.0%
大阪府	18,940	907	305	33.6%	194	21.4%
兵庫県	12,623	524	137	26.1%	76	14.5%
奈良県	2,840	108	26	24.1%	15	13.9%
和歌山県	3,121	119	24	20.2%	15	12.6%
鳥取県	1,718	84	21	25.0%	13	15.5%
島根県	2,453	91	31	34.1%	20	22.0%
岡山県	4,628	172	29	16.9%	12	7.0%
広島県	6,211	268	69	25.7%	44	16.4%
山口県	3,560	119	30	25.2%	20	16.8%
徳島県	1,781	96	12	12.5%	8	8.3%
香川県	2,139	78	8	10.3%	5	6.4%
愛媛県	3,839	126	23	18.3%	12	9.5%
高知県	2,117	80	27	33.8%	10	12.5%
福岡県	11,125	442	128	29.0%	78	17.6%
佐賀県	1,840	77	16	20.8%	10	13.0%
長崎県	3,214	141	28	19.9%	21	14.9%
熊本県	4,391	173	35	20.2%	23	13.3%
大分県	2,619	90	18	20.0%	10	11.1%
宮崎県	2,720	104	35	33.7%	23	22.1%
鹿児島県	4,234	143	38	26.6%	24	16.8%
沖縄県	2,799	124	36	29.0%	20	16.1%
全国	318,141	12,591	2,986	23.7%	1,759	14.0%

別紙7-1 詳細

都道府県	2005年					2006年					2007年				
	一般市民により心肺機能停止の時点が目撃された心原性的心肺機能停止症例														
	1か月後生存者数			1か月後社会復帰者数		1か月後生存者数			1か月後社会復帰者数		1か月後生存者数			1か月後社会復帰者数	
		1か月後生存率		1か月後社会復帰率		1か月後生存率		1か月後社会復帰率		1か月後生存率		1か月後生存率		1か月後社会復帰率	
北海道	188	45	23.9%	21	11.2%	237	59	24.9%	32	13.5%	211	72	34.1%	48	22.7%
青森県	57	6	10.5%	2	3.5%	61	14	23.0%	7	11.5%	57	18	31.6%	10	17.5%
岩手県	53	8	15.1%	4	7.5%	55	11	20.0%	5	9.1%	67	16	23.9%	9	13.4%
宮城県	77	11	14.3%	7	9.1%	100	21	21.0%	14	14.0%	90	21	23.3%	12	13.3%
秋田県	53	10	18.9%	9	17.0%	49	14	28.6%	9	18.4%	57	16	28.1%	14	24.6%
山形県	51	3	5.9%	1	2.0%	50	15	30.0%	9	18.0%	43	11	25.6%	6	14.0%
福島県	84	11	13.1%	4	4.8%	82	8	9.8%	4	4.9%	92	22	23.9%	13	14.1%
茨城県	70	10	14.3%	5	7.1%	97	15	15.5%	8	8.2%	91	24	26.4%	16	17.6%
栃木県	73	8	11.0%	2	2.7%	91	11	12.1%	7	7.7%	81	12	14.8%	7	8.6%
群馬県	60	11	18.3%	7	11.7%	57	9	15.8%	9	15.8%	64	18	28.1%	12	18.8%
埼玉県	210	36	17.1%	18	8.6%	220	44	20.0%	28	12.7%	254	75	29.5%	52	20.5%
千葉県	141	25	17.7%	11	7.8%	169	34	20.1%	19	11.2%	171	47	27.5%	36	21.1%
東京都	333	74	22.2%	41	12.3%	367	59	16.1%	31	8.4%	399	77	19.3%	51	12.8%
神奈川県	280	52	18.6%	22	7.9%	262	61	23.3%	29	11.1%	298	74	24.8%	47	15.8%
新潟県	70	10	14.3%	6	8.6%	101	13	12.9%	7	6.9%	80	24	30.0%	15	18.8%
富山県	35	12	34.3%	3	8.6%	54	22	40.7%	9	16.7%	40	11	27.5%	7	17.5%
石川県	47	11	23.4%	8	17.0%	53	13	24.5%	4	7.5%	35	11	31.4%	10	28.6%
福井県	22	5	22.7%	3	13.6%	13	3	23.1%	2	15.4%	27	5	18.5%	4	14.8%
山梨県	36	5	13.9%	3	8.3%	33	4	12.1%	3	9.1%	22	4	18.2%	4	18.2%
長野県	73	10	13.7%	6	8.2%	74	7	9.5%	2	2.7%	57	10	17.5%	6	10.5%
岐阜県	74	21	28.4%	11	14.9%	60	14	23.3%	8	13.3%	59	15	25.4%	12	20.3%
静岡県	119	10	8.4%	7	5.9%	152	40	26.3%	18	11.8%	156	24	15.4%	12	7.7%
愛知県	244	48	19.7%	24	9.8%	279	96	34.4%	51	18.3%	293	111	37.9%	75	25.6%
三重県	60	8	13.3%	5	8.3%	60	12	20.0%	6	10.0%	61	13	21.3%	9	14.8%
滋賀県	39	8	20.5%	6	15.4%	44	11	25.0%	6	13.6%	38	9	23.7%	6	15.8%
京都府	107	37	34.6%	19	17.8%	96	33	34.4%	17	17.7%	110	32	29.1%	14	12.7%
大阪府	261	71	27.2%	45	17.2%	327	103	31.5%	54	16.5%	319	131	41.1%	95	29.8%
兵庫県	177	37	20.9%	21	11.9%	191	54	28.3%	27	14.1%	156	46	29.5%	28	17.9%
奈良県	29	6	20.7%	5	17.2%	37	9	24.3%	5	13.5%	42	11	26.2%	5	11.9%
和歌山県	33	8	24.2%	3	9.1%	44	11	25.0%	7	15.9%	42	5	11.9%	5	11.9%
鳥取県	26	6	23.1%	3	11.5%	29	8	27.6%	4	13.8%	29	7	24.1%	6	20.7%
島根県	28	10	35.7%	7	25.0%	35	10	28.6%	5	14.3%	28	11	39.3%	8	28.6%
岡山県	54	9	16.7%	3	5.6%	59	8	13.6%	4	6.8%	59	12	20.3%	5	8.5%
広島県	92	19	20.7%	12	13.0%	92	22	23.9%	14	15.2%	84	28	33.3%	18	21.4%
山口県	33	3	9.1%	1	3.0%	44	14	31.8%	10	22.7%	42	13	31.0%	9	21.4%
徳島県	29	3	10.3%	3	10.3%	37	3	8.1%	0	0.0%	30	6	20.0%	5	16.7%
香川県	18	1	5.6%	1	5.6%	34	2	5.9%	0	0.0%	26	5	19.2%	4	15.4%
愛媛県	46	3	6.5%	1	2.2%	40	8	20.0%	4	10.0%	40	12	30.0%	7	17.5%
高知県	20	7	35.0%	1	5.0%	23	7	30.4%	3	13.0%	37	13	35.1%	6	16.2%
福岡県	129	40	31.0%	21	16.3%	144	35	24.3%	22	15.3%	169	53	31.4%	35	20.7%
佐賀県	18	8	44.4%	5	27.8%	19	5	26.3%	2	10.5%	40	3	7.5%	3	7.5%
長崎県	30	4	13.3%	3	10.0%	50	11	22.0%	8	16.0%	61	13	21.3%	10	16.4%
熊本県	66	5	7.6%	4	6.1%	44	9	20.5%	6	13.6%	63	21	33.3%	13	20.6%
大分県	20	4	20.0%	2	10.0%	37	7	18.9%	4	10.8%	33	7	21.2%	4	12.1%
宮崎県	29	9	31.0%	4	13.8%	23	8	34.8%	6	26.1%	52	18	34.6%	13	25.0%
鹿児島県	40	7	17.5%	5	12.5%	54	14	25.9%	7	13.0%	49	17	34.7%	12	24.5%
沖縄県	25	6	24.0%	2	8.0%	50	13	26.0%	3	6.0%	49	17	34.7%	15	30.6%
全国	3,859	761	19.7%	407	10.5%	4,329	1,004	23.2%	539	12.5%	4,403	1,221	27.7%	813	18.5%

別紙8

心肺機能停止傷病者全搬送人員のうち、一般市民により除細動が実施された件数
(都道府県別)



都道府県	2005年	2006年	2007年
北海道	1	10	17
青森県	1	2	4
岩手県	2	1	5
宮城県	1	4	13
秋田県	0	1	2
山形県	2	6	3
福島県	5	6	4
茨城県	2	4	9
栃木県	2	2	7
群馬県	4	6	5
埼玉県	5	18	32
千葉県	2	16	14
東京都	10	51	96
神奈川県	8	15	21
新潟県	3	5	9
富山県	0	1	3
石川県	0	2	7
福井県	3	2	1
山梨県	0	3	2
長野県	0	5	7
岐阜県	0	7	11
静岡県	1	10	17
愛知県	8	10	41
三重県	0	6	12
滋賀県	0	2	7
京都府	1	2	10
大阪府	3	16	29
兵庫県	6	7	33
奈良県	0	1	0
和歌山県	0	3	3
鳥取県	4	0	3
島根県	0	2	3
岡山県	2	0	4
広島県	6	8	15
山口県	0	3	3
徳島県	0	1	1
香川県	0	1	1
愛媛県	1	3	5
高知県	0	1	2
福岡県	3	14	7
佐賀県	1	0	5
長崎県	3	1	2
熊本県	1	1	1
大分県	0	0	2
宮崎県	0	1	4
鹿児島県	1	1	3
沖縄県	0	3	1
全国	92	264	486